戦争資料展示実践とデジタルアーカイブ理論

伊勢原市「平和事業」との協働の成果より

水島久光

War Materials Exhibition Practice and Digital Archive Theory
From Isehara City Peace Project

MIZUSHIMA Hisamitsu

Abstract

The author has been collaborating with Isehara City in Kanagawa Prefecture on the "Peace Project" since late 2014. Especially in 2022 and 2023, after the COVID19 crisis, the author has been planning and implementing an exhibition of war-related materials. Since the publication of my book on the transmission of memory on the 75th anniversary of the end of the Asia-Pacific War, the author has been working in various regions and research groups to empirically confirm the significance of the practice and theory of digital archiving, especially the sharing of "metadata schema". When we look back at "exhibitions" and "digital archives" from the perspective of structure, we can find many commonalities between them. Whether they are physical (primary) materials or reference (secondary) materials via photocopying or networks, the function of the "arrow of symbols" as an opportunity for meaning, which points to the connection between "objects and words," is a circuit that goes back and forth between the virtual of thought and the real of living (experiencing and recognizing).

1. 戦争資料に関する実践研究の続章として

筆者は 2020 年に出版した『戦争をいかに語り継ぐか:「映像」と「証言」から考える戦後史』 (NHK 出版) の終章・終節の最初の段落を、「未だに、我々は戦争を終えることができないでいる」の言葉で締めている。この一言には「戦争は終わったはずではないのか?」という反語的なニュアンスを込めたつもりだったが、残念ながら現実はそれより遥かにシビアであった。

2022年のウクライナ侵攻、2023年のガザ地区の戦闘、そしてそれらを材料に危機感を煽る人々を見るにつけ、悠長に構えてはいられない思いが募る。

沖縄の基地反対運動を揶揄するツイートが繰り返されている。アテンション・エコノミーが 稼ぎ出すフリクエンシーは、いつしかトークンをタイプ化し、正当化の土壌が形成される。ネット的言説の洪水は、まるで歴史という川の流れを全く変えてしまったようだ。まずは「党派性」ありき――米大統領選から、宗教やアイドル「推し」に向かう心性まで、「信じよ」が始め にあり、エビデンスは後から都合よく貼り付けられる。「ポスト・トゥルース」の時代はこうして作られるのだという事例ばかりが日々タイムラインに並ぶ。

大げさな物言いかもしれないが、だからこそ「アーカイブ」を論じるべきなのである。権威主義的な記録の集積ではない。市民に開かれ、主体的にアクセスしうる「仕組み」「考え方」が必要だ。デジタル技術にはその機能的な下支えが期待できる。その思いからさまざまな構築プロジェクトにも積極的にコミットしてきた(2017年からデジタルアーカイブ学会理事)。しかしそこここに壁があった。『戦争をいかに語り継ぐか』出版後、同学会にて「戦争関連資料に関する研究会」を発足させた。しかし、上手くいかなかった。約2年弱で一旦休会とした。

「アーカイブ」の必要性については賛同するものの、対象への距離や(イデオロギーというほど明確ではないにせよ)何らかの人々の思考を方向づけているものが、本来的な期待であるところの「つながり」の形成を阻むこととなる。戦争はその極北にある。「資料の何を残し、何を伝えるべきか」の合意なきところに積み重ねられた数多の資料群は、現に次世代に手渡すことができず、瓦礫の中に還らざるを得ない危機の中にある。

本研究ノートは、その「壁」の大きさに対する、「ささやかな」抵抗の記録である。

2. 伊勢原市との共同事業の展開

東海大学と包括協定を結ぶ伊勢原市の平和事業(平和史料収集・公開事業)1に水島研究室が協力するようになったのは、2014年秋からである。同市でこの事業を主管する市民協働課からのオファーがあり、翌年の戦後70年を控え、市内在住(または所縁の)体験者の証言を映像で残すプロジェクトが始まった。筆者はこの共同事業を進めるにあたり、学生によるインタビュー形式を提案した。質疑応答を通じて世代差や知識差による、様々な共有し得ないものの徴候を刻むことができるだろうと考えたからである2。

結論から言ってその目論見は当たった。もちろん一定レベルの歴史的知識は持ったうえでではあるが、それでも 21 世紀に育った日常感覚から繰り出される質問に、体験者たちは時に戸惑い、時にそれを引き金にそれまでの「一方通行的講話」では触れなかった事実や心情を言葉にした。2015 年 1 月~2016 年 7 月に収録した 10 名の映像のいずれにも、男性と女性、従軍年齢に達していたか否かの差はあるが、そうした痕跡をはっきりと見てとれる。

このインタビュープロジェクトは、その後 2017 年 12 月~19 年 8 月には「伊勢原市被爆者の会」(市内在住の広島・長崎での被爆者の会)メンバーを対象として実施。また 2020 年からは、直接の体験者と新たに出会える機会がほぼなくなってきたことを背景に、市内の7つ地区

自治会ごとに「地域に残る戦時期の記憶」を映像作品にして残すシリーズ(「伝えたい想いを乗せて」)をスタートさせた。一方、平和事業のもう一つの柱である「中学生ヒロシマ平和の旅」(1995 年第一回)に 2015 年から大学生と同行。2018 年まで映像記録を残した(2019 年は、中学生自身によるスライドショー制作を支援)。

伊勢原市はまた、これら平和事業の成果を市民と共有する場として、毎年8月に「平和のつどい」を開催してきた。筆者も 2015 年からインタビューと「中学生ヒロシマ平和の旅」映像の上映・解説のために出席した。しかしこの「つどい」も 2020 年からはコロナ禍で開けなくなった。そこで 2022 年、その代わりとして「平和を祈念するパネル展示」が企画され、新たに協働事業とすべくオファーがあった。それに対して筆者は、前掲書やデジタルアーカイブ学会で示した問いと仮説をベースに展示計画を提案した3。

3. 伊勢原市「平和を祈念するパネル展示」(2022年)の開催

3-1 2022 年度展示のターゲットとコンセプト

2022年の「パネル展示」の企画は、もともと感染症への配慮からの発案ではあったが、会場の伊勢原市市民会館の市民ギャラリーでは、以前から「平和のつどい」の開催に合わせて、何らかの戦争と平和にまつわる展示は行われてきた。

筆者が関わる前は、市内の市民団体がそれぞれに割り振られたスペースで展示を行っていたケースが多く、概ね全体を括るテーマは設けられず、正直やや雑多にモノが並べられていた印象があった。5月から準備作業を始めた2022年の企画は、その過去とは一線を画し、市の担当者(市民協働課倉内氏、小林氏等)とはコンセプトの擦り合わせから始めた。というのもこの年はこの展示に「平和のつどい」を代替する、市の平和事業の「顔」としての役割が期待されたからである。特に2年間実施されなかった「中学生ヒロシマ平和の旅」も、この年は規模を縮小して開催されることになり、その報告の場も設けられることとなっていた。

旅の報告とのシナジーを図るため、市民協働課ではそのお披露目の場を訪ねる旅程になっていた、広島市立基町高校美術部の『次世代と描く「原爆の絵」』の複製画の借入れをあらかじめ手配していた。さらに旧来行ってきた市民団体のスペースが用意され、そこに今回の企画展示が加わるという訳である。これらの条件を踏まえ、この年の「パネル展示」の主たるターゲットには、再開した「ヒロシマの旅」の報告を見に来る中学生及びその家族(親)世代たちを設定した。そして彼らに展示を通じて何を伝えるべきかを考え、配置を考えた。

中学生たち 2000 年代後半生まれは、戦争体験者の曾孫世代にあたり、直接的に語られた戦時記憶に出会う経験は著しく乏しい。そもそも親世代に知識や歴史意識が十分にないケースも少なくなく、「戦争=悲惨」「現代日本=平和」というステレオタイプが形成されがちである。「ヒロシマの旅」は、市内 4 校の優秀作文表彰者によるものではあるが、彼らが「見て体験してきたことを報告する」という媒介者の役割を担う点において、その短絡に抗うコミュニケーションが創造される可能性がある 4。そこで本企画展示においては、彼らの親世代も含め、「そもそも77 年前に"終結"した、この国が当事者となった戦争とは何だったのか」について、基本

的な理解を促す構成を考えた。

3-2 2022 年度展示の資料構成

対象を「15 年戦争期」に絞るだけでも様々な異論があり得る。しかし若い世代が「戦争」を 具体的に受け止める目的のためには、そのエビデンスを明確にした括りを示す必要がある(も ちろん別の括りも可能であるが、その場合はまた別の根拠が必要である)。そこでこの「パネ ル展示」のターゲットが中学生とその家族であることが重要なポイントとなった。彼らが「戦 争」を身近な出来事(自分ごと)として理解するための鍵はなにか――それは「総力戦(=総 動員体制)」すなわち一般市民が戦局にあからさまに巻き込まれていく過程ではないか――と 仮置きしてみた。というのも政治史、軍事史といった上からの教科書的目線だけでは、中学生 やその両親世代が「自分ごと」と捉える次元と戦争の間には、距離が生れてしまうからだ。

満州事変を起点とする「15 年戦争」論は、確かに「ある特定の視座」に基づく意味を指示するだろう――だがそもそも「戦争を語る」行為自体が、それと避け難く結びついているのだ。 戦争資料展示においては、そのメタレベルのコンフリクトにいかに気づき、架橋点を見出せる



図1 2022 年展示のもととなった 2015 (平成 27) 年展示

展示空間における資料と閲覧者の位置 の動きやランダムで自由な視線の回遊 は、その創出の機会となる。だからこ そ展示品とその配列、キャプションの 位置とその内容には細心の注意を払う べきなのだ。

かが大切であると筆者は考えている。

その考えを形にする近道として、2022年の展示は伊勢原市文化財課の所蔵品を中心に構成することとした。なにぶん新たな試みとはいえど、限られた準備期間の中で着実に成果を上げる必要がある。そのために、過去の展示(平成27(2015)、28(2016)年の「平和資料展」)の目録をベースに、出展可能なものを選び出し、そこに他のソースからの資料を加えて肉付けをするという手順を踏んだ。

そこで頼もしい協力者となったのが、

大磯町郷土資料館である。同館の学芸員である冨田三紗子氏は、筆者がデジタルアーカイブ学会の SIG (自主研究会) として立ち上げた「戦争関連資料に関する研究会」のメンバーとして、メタデータ・スキーマの検討の議論に参加し、2021年に Web 上で開催した「大磯と戦争」展

の目録データを、研究会事務局が行ったシミュレーションのために共有してくださった。今回 の伊勢原の「パネル展示」に際しても、近隣自治体として快く協力に応じてくれた。大磯から の資料の借り入れは、それ自体がメタデータ共有の効用として想定されていたものだ。

大磯以外にも、東海大学水島研究室所蔵の資料、さらには『伊勢原市史(資料編・近現代2)』 に掲載されている資料もプリントしてこれに加え、目録は完成に向かっていった。

3-3 コーナー、キャプションからメタデータへ

筆者がデジタルアーカイブ学会「戦争関連資料に関する研究会」で示した仮説では、一次資料の「展示」事績はデジタルアーカイブ化作業と極めて密接な関係にある。特に展示コーナー名とキャプションは、メタデータ構造の中心的軸として位置づけられるがゆえに(コーナーは展示品の外延:カテゴリーを指示し、キャプションはコーナーあるいはコレクションを横断して展示品を結ぶ内包:キーワード類のありか=コンテクストを指示する)、あらかじめ計画段階で考慮することは、作成された展示品に関わる情報(目録、キャプション、コーナー解説文書等)は、メタデータ化作業の軽減に直結する。

このことを踏まえて、2022年の「パネル展示」は、展示品の選考に先立ってコーナーの検討を行い、まず5~6月の準備段階では以下の4コーナーを想定した。

1	戦争の時代とその前後	時代区分(15 年戦争期、以前と戦後)を示す年表と対応する品
2	戦地に赴く~出征とその思い	徴兵関係、出征兵士の装備と関連物品・文書
3	銃後の日常〜総力戦を支える	国防(愛国)婦人会を中心とした、日常生活の意識統制
4	学校では何を学んでいたか	学校生活に関わる品物・文書、子どもたちの作品など

表 1 2022 年展示の初期のコーナー計画

過去の伊勢原市の展示においては、特に②、③に関わる一次資料(現物、レプリカ)が、十分な背景情報の説明もなく陳列されていた。その反省を下敷きに、2022年の「パネル展示」においては、この「②送り出される側」「③送り出す側」の関係性に注目し、そこに意味論的情報を配するようにした。さらにおおよそ展示品が確定した7月末段階でこの①~④のコーナーを各々二分割して以下の8コーナーとし、もともと用意されていた展示台(机とパネル壁)の数ともうまく対応するかたちとなった。

表 2 2022 年展示の8コーナー解説パネル (※実際の2022 年度展示に用いたコーナー解説 (筆者文責))

1. 戦争はいつから始まったか

私たちが教科書やメディアを通じて知る「日本の戦争は、その多くが昭和 19 年から 20 年の出来事で構成されています。しかし「戦争」はある日突然始まったのではありません。空襲や原爆、戦地での虐殺や玉砕などの悲惨で非人道的な体験は、それを避けられない状況に人々を追い込んでいった数々の体制、制度、政策に関する判断の積み重ねの結果であり、またそれは一部の為政者の独断ではなく、それを支える人々の心情や熱狂があってのことでした。その意味で「戦争の歴史をどこまで遡るべきか」は難しい問いです。細かい戦闘の性質の違いをいう人もいれば、明治維新以降の社会が辿った道がすなわ

ち戦争への足取りに他ならないと考える人もいます。ここでは、軍部独裁と覇権主義の台頭の引き金となった満州事変 1931 年 9 月 18 日を起点とする紛争から終戦、さらには日本国憲法制定・公布: 1946 年 11 月 3 日までの約 15 年間を、「戦争の時代」として振り返ることにします。

2. 満州事変から太平洋戦争へ

満州事変の発端となった柳条湖事件 (1931 年 9 月 18 日:大日本帝国関東軍による自作自演の鉄道爆破事件) は、満州中国東北部に対する権益意識の高揚が直接的な引き金となりました。日露戦争以降、国策に大衆心理を巻き込んでいくようになった日本政府は、特に遼東半島の租借権獲得と南満州鉄道敷設 (1906)、さらに韓国併合 (1910)を経て東アジアへの膨張政策の布石が用意されると、欧米列強の植民地主義に抵抗する「大義」を謳うようになります。しかしその実態は、自らの優越性を疑わない独善でした。それでも世界恐慌 (1929)による農村の疲弊で活力を失った民衆は、「移民」に「五族協和」の夢をつなぎ、日中開戦 (1937)を経て広がった「八紘一宇」「大東亜共栄圏」のスローガンに希望を託したのです。一方、国際連盟脱退 (1933)以降孤立化が進み、物資供給源を絶たれ、肥大する軍事費を支えられなくなった日本経済は、対米開戦という選択に追い込まれていきます。

3. 兵士のいでたち

男性の戦争体験者の多くは、少年時代に兵隊に憧れた記憶を語りました。特に海軍の夏の白軍服、 陸軍士官学校の制服など、そのいでたちが羨望の的だったそうです。当時の少年たちは、「制服」 「軍服」をシンボルとして、出征し軍功を上げることを、ロールモデルとして心に刻んでいきますが、同時にそれは軍隊組織が、子どもの精神的な発達段階や地域における日常の生活規範に浸透していたことの証でもありました。現在の「制服」にも、そうした機能の名残りがあります。しかし実際は、階級章などが重要な意味をもつ将校以上の制服を除くと、下士官や一般兵の軍服は戦闘目的に最適化された、本来合理性が追求された「軍装」としてデザインされたはずのもので、今日歴史資料として見るべきもう一つの視点は、そこにあるといえます。

4. 徴兵検査から入営へ

戦時期の日本では、男子には満 20 歳になると、兵士になる義務がありました。昭和 2 年の改訂兵役法の制定で国民総動員体制が進められて以降、全員が徴兵検査身長、体重測定、性病検査などを受け、体格の良い順に甲種、乙種、丙種の三種に分けられました。徴兵検査後、甲・乙種合格をしたものの中から現役兵に選ばれた者に交付される現役兵証書を携帯し、入営軍隊入りすることになる一方、丙種は恥とされる差別意識が醸成されました。徴兵の範囲は、大戦末期には国内全域から領有地の朝鮮・台湾に及びました。各市町村では、この徴兵のための名簿作成、留守家族への扶助、戦没者の葬儀や慰霊など、いわゆる兵事業務が大きな位置を占めるようになり、今日でも兵事関係の公文書は戦時下の生活を知るための貴重な資料となっています。

5. さまざまな銃後組織

銃後とは戦場の後方を意味しますが、この時代は戦闘に加わらない一般国民生活全般を指しており、まさに総力戦体制の考え方が表れています。代表的なものには全国的な組織となった在郷軍人会 (1910 年発足:現役を離れた軍人が予備役に備える組織)愛国婦人会(1917 年発足)大日本国防婦人会(1932 年発足:のちに各種婦人会は合流)などがあり、前者は徴兵検査、式典協力、入営者の予習訓練も担当、

後者は出征兵士の送迎、傷病兵・遺骨の出迎え、寄付、慰問袋の作成などを行い、 戦争と日常をつなぐ 中間組織となりました。満州事変は、これら銃後組織活発化の転機となりました。初期の「移民」の中 心は在郷軍人であり、「別れ」は次第にイベント化していきます。また日中開戦以降戦地が拡大すると、召集令状 在郷軍人への赤紙は民衆に緊張を与えました。さらに 1937 年 4 月公布の防空法によって「隣 組」が組織されます。銃後は「守り」の側面が強調され、様々な統制が行われるようになります。

6. 物資不足と生活統制

日中開戦後の戦時体制のもと、昭和13年1938年4月に「国家総動員法」が公布されました。これはあらゆる経済活動、国民生活を戦争目的に収斂させるために、国家による統制を図ろうとした法律です。当初対象は綿糸・ガソリン・重油などの原材料に限られていましたが、戦争の長期化で日常生活に波及。不足する物資確保のために実施された配給制度は、昭和15年(1940)に砂糖・マッチが配給制となってから広がり、米穀をはじめとする主要食糧や必需品も、やがて配給を通じてしか入手できなくなります。特に米の配給は昭和19年(1944)には1か月に10日分程度の量に減配され、いも類、豆がすなどを代用とし、その他食料となるあらゆる物をいっしょに炊き込んだ雑炊・すいとんを常食として空腹をしのぎました。統制の裏をくぐって周辺の農家へ買い出しに出る人も多く、終戦前には飢餓状態に近いなります。戦争が終わっても、物資不足は解消せず、戦後の混乱の中で飢えは続きます。

7. 学校生活

1900 年に公布された改正小学校令で、尋常 4 年高等 2 年と定められていた昭和初期の小学校には、「奉安殿」と呼ばれる施設があり、「御真影」や「教育勅語」が安置され、国民精神を支える学校で最も神聖な場所として最大の敬意と注意が払われていました。そこに 1941 年 (昭和 16 年) 4 月国民学校令が施行されると小学校は国民学校と改称され、総力戦体制に対応し「言行一致・心身一体の皇国民錬成」(国民精神を体認し、国体に対する確固たる信念を有し、皇国の使命に対する自覚を有すること)の目的を強化した機関に変わります。子どもたちは少国民と呼ばれ、教科書も一新。国民科(修身・国語・国史・地理)、理数科(算数・理科)、体錬科(体操・武道)、芸能科(音楽・習字・図画・工作)に加え、女子は裁縫・家事、高等科では実業も加わり「献身奉公」「職業報国」の実践力を身につけることが求められました。木銃などを用いた軍事教練(女子はなぎなた訓練・救護訓練・看護訓練)も行われました。

8. 子どもたちの心の中

子どもたちは、暮らしの隅々までが国家と一体となって戦争に邁進する「挙国一致」「尽忠報国」のスローガンの中で育っていきます。学校にとどまらず、家庭や日常生活など、あらゆる場面で、善悪の判断や、規範とすべき考え方は貫かれ、成長とともに身につけていくことになります。例えば両親の手伝いや、地域で誰にどのように敬意を払うべきなのか、あるいは子どもたち同士の遊びでも、勝ち負けや描かれている情景の中に強く戦時色はあらわれ、男子は当然のように「兵隊に憧れ」、女子は「良妻賢母になろう」と努力をします。当時の子どもたちが書き記した日記や、戦地に送られた作文などの慰問の品には、そうした時代の彼らの「心」を垣間見ることができます。しかし終戦後、「教科書の墨塗り」が行われるなど学校教育は機能不全となり、子どもたちはさまざまなところで混乱状況に直面します。こうした社会の激変が彼らの「心」にどう刻まれたかも、「戦争」の記憶とともに考えてみたい問題です。



写真 1 2022 年展示全景と各コーナー

4. 伊勢原市「平和を祈念するパネル展示」(2023年) の開催

4-1 2023 年度展示企画のコンセプト

2022 年度の「平和を祈念するパネル展示」の好評を受け、伊勢原市は次年度の企画継続を 決め、新年度に入って早々に引き続きの協力を筆者に求めた。そこでこの「パネル展示」のス キームを 2~3 パターン用意し「モデル化」し、データのアーカイブ化とともに将来にわたっ て巡回あるいは繰り返し開催できるよう提案し、合意に至った(担当は倉内氏と龍氏)。

2023 年度は、その展開イメージを具体化する方向で検討することになったが、前年度のどちらかといえば「入門的」なストーリーから発展させ、今回はテーマ性を表に出していくことにした。というのも、まず(前年の大磯町に続き)近隣自治体として平塚市との連携が可能性として浮かびあがったからだ。2019 年度まで市内中学校に勤務し「ヒロシマの旅」に同行した石野正樹教諭は、翌年に平塚中等教育学校に転勤後も、伊勢原時代に得た経験と知見を活かし、新しい環境で平和教育を推進してきた。その実績を携えて協力を申し出てきたのである。

それは平和事業を自治体の枠組みから開いていく契機となり、「展示」は資料を媒介に「地域」という平面を拡張し、意味解釈の広がりを創出する装置となった。さらにそれに加え、伊勢原市の平和事業の「過去」の記録やパブリックな公開資料とのリンクが織り込まれるようになった。時間・空間の広がり、そして社会組織的な地層を重ねる立体的構造が、この展示に期待されるようになったのである。

その声に応えるべく設定されたテーマが「空襲」である。筆者も『戦争をいかに語り継ぐか』 以降、具体的な「戦争関連資料」問題を考える手がかりとしてフォーカスしてきたのが「空襲」 であった。全国 200 ヵ所以上の地域が被災し、その記憶を継承しようという活動が各地に存 在している。またその事象自体が非対称である(落とされた側にとってみれば「空襲」、落と した側にとっては「空爆」)という、20世紀の戦争の核心に迫る問題を提起している――こ の点は総動員体制の形成に通底する5。

しかし伊勢原市と「空襲」との距離感は実に微妙である。隣接する平塚市は大規模空襲を経験した町であり、伊勢原市南部に住む高齢者の中には、遠くからその様子を見ていた記憶を持つ人は少なくない。また機銃掃射の犠牲者についても語り継がれている物語がいくつかある。しかしいわゆる「焼け野原」の経験はない。一方、平和事業が始まった当初から「核廃絶」は宣言の中心に据えられており、中学生はヒロシマを体験し、また被爆者の会も市民団体の中で指導的な役割を果たしてきた――だからこそ逆説的ではあるが、伊勢原で「空襲」を考えることは、戦争を取り巻く多様な言説をつなぐ契機になりうる。

4-2 2023 年度展示コーナーと技術的な工夫

前年行った手順に従って、2023年6月には大まかなコーナーコンセプトを固め、展示品の選出作業を開始した。当初から意識をしたわけではないが、前年よりも既存公開資料や証言、映像などの視覚資料を広く参照したため、現物よりも複写資料の点数が多くなったことが特徴である。そのベースには、協力を仰いだ平塚市博物館(浜野達也館長をはじめとした方々)の長年にわたる証言収集や統計的な調査の集積成果があったことに触れずにはいられないだろう。

このように 2023 年度の「パネル展」は、多様な社会教育機関やメディアの資料に当たることにより(国立公文書館や国立国会図書館の公開資料の活用、東京新聞・毎日新聞・タウンニュース社の記事など)、現物・一次資料が与える感覚的なインパクトよりも、客観的かつ史的検証の蓄積を踏まえた「解釈」の提示に軸足を若干シフトした。そしてそこに市民協働課に残された過去の「平和事業」の記録、平塚中等教育学校の生徒の活動記録、伊勢原市図書館の収蔵図書、伊勢原市文化財課資料、水島研究室所蔵資料が加わり、ラインナップが整えられたのである。

表 3 2023 年展示の8コーナー解説パネル (※実際の2022 年度展示に用いたコーナー解説 (筆者文責))

① 空襲と空爆一被害と加害

18 世紀末、気球の戦争利用が「空からの攻撃」の始まりといわれていますが、20 世紀に入り飛行機が開発されると一気に本格化します。第一世界大戦の戦闘の市民への拡大、第二次世界大戦の総力戦化は間違いなく「空襲/空爆」が引き金となったものです。

同じ一つの出来事でありながら、「攻撃を加える側=空爆」「爆撃を受ける側=空襲」という別の言葉で語られることが、この行為の非人道性と理屈の合わなさ(矛盾)を表しているといえます。なぜこのような残酷な行為が正当化されたのでしょうか。

② 防空思想と総動員体制

満州事変以降、人びとは「空」を戦場として強く意識するようになり、日中戦争がはじまると「戦略 爆撃」論には、実践的色あいが急速に加わっていきます。各地で防空演習が行われ、その理論書や啓 発ポスター、記録映像なども数多くのこされるようになります。 防空の備えは、在郷軍人会、愛国婦人会などの銃後組織によって日常生活の規範となっていきました。 しかし、爆撃の現実感のないところで行われる訓練や装備には、徐々に精神論的要素が強まっていき ます。

③ 7.16 平塚空襲-都市爆撃の実相

1945 年 7 月 16 日深夜から未明にかけて、伊勢原の隣町・平塚は 133 機の B29 による爆撃で壊滅的な被害を受けます。死者 363 人以上 (7575%が身体に直撃)、全焼 8,263 戸、当時の平塚市と大野町 (のちに合併) の 6060%の人が焼け出されました。

米軍は6月17日以降、大都市空襲の次の段階として中小都市市街地の夜間空襲に入っており、1度に33~4都市(大分、桑名と同日)が襲撃されました。この空襲は旧平塚市中心部に爆撃中心部をおいた空襲でしたが、実際は、東西では小田原~茅ヶ崎の範囲にも投弾があり、北は伊勢原市高部屋にも焼失被害があったと記録されています。

④ 市民が体験した平塚空襲

平塚は、市北部の第二海軍火薬廠や軍用機を生産する日本国際航空工業を中心とした軍需工場が多く建てられた「工都」であり、まさに米軍としては順次攻撃すべき都市でした。また攻撃対象もみつけやすく、空襲の密度、投下焼夷弾は大量となり、攻撃100分で、街には高い火柱が上がり、焼き尽くされました。

中心部に住む人々は工場に阻まれ、主に東西と南に避難しましたが、伊勢原から通勤していた人もおり、その避難の証言も残されています。また空襲に対する火器や反撃する航空機もほとんどなく、一般市民は抗戦力がほとんどなくなった自軍の現実をまざまざと見せつけられました。

⑤ 伊勢原と「空襲」

伊勢原は今でこそ平塚市と隣接していますが、戦後(昭和 31 年の大合併の前は間には豊田村、大野村などの田園地域を挟んでおり、互いの市街地は離れていたため、伊勢原の人々にとって空襲は遠くの出来事であり、そのような証言もいくつか残っています。

しかし実際には、現在の伊勢原市内でも投下された焼夷弾は発見されており、また、7月 16日の本空襲以降も、7月 30日、8月7日など、県中西部では広域で焼夷弾の投下や機銃掃射が行われたことが記憶・記録に残されています。

⑥ 記憶に残る物語

伊勢原市では、戦後 70 年の 2015 年から、市内・市ゆかりの戦争体験者の記憶をインタビュー映像の 残す事業を続けてきました。伊勢原市が 20152015~17 年の間に収録した戦争体験者インタビュー(10 名)の映像の中にも、「空襲の記憶」が語られたシーンがいくつもあります。

その多くは「機銃掃射」による被害・犠牲者にまつわる物語ですが、伊勢原の市民の心に戦争の悲惨 さ・理不尽さを刻み込む出来事でした。

⑦ 原爆を知る一伊勢原市被爆者の会の活動

2018年度と19年度は、伊勢原市被爆者の会の方々を対象にインタビュー映像を収録しました。中でも会長の大盛一郎さん、副会長の小渕義信さんは、90歳を越えた現在も勢力的に原爆の記憶を伝える活動を続けています。

2023年7月も、今年度広島に行く「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」の事前学習にて、世代を超え、思いをつなぐ対話ワークショップが行われました。

⑧ 中学生は広島で何を見たか

「中学生ヒロシマ平和の旅」は、伊勢原市が「平和都市宣言」を発表した翌々年の平成7年から始まりました。平和記念式典参列や原爆資料館の見学だけでなく、近年は平和記念公演を出て、市内の被爆遺構を訪ねたり、他県から広島に訪れた中高生たちとのディスカッションを行ったり、活動が広がっています。

各中学の代表者で構成される派遣団の生徒たちは、伊勢原に戻って「平和のつどい」やパネル展示、 あるいは各校で自分たちの体験を伝える役割も担っています。彼らは、広島から、伊勢原の空に何を 持ち帰ってきたのでしょうか。

2023 年度のコーナー解説文は、この様に前年度よりは若干簡潔となったが、それは展示品に文章や映像など情報量が多い資料が増えたためである。特に導入部(①)のコーナーにおける図書展示は、「空襲/空爆」戦略を基礎づけるドゥーエ理論から重慶・ドゥーリトル空襲の実相を経て本土空襲に広がる流れを示す重要書籍を、市図書館から借りだし、揃えることができた。しかしそれ以降は、実際に掲示されるパネル面積では十分ではなく、出会った情報をきっかけに、さらに詳しく知りたい/考えたい人のためにリンクを辿れるような工夫が必要であると考えるに至った。そこで QR コードを組み込んだ展示パネルを用意することとなった。

QR コードをキャプチャすると「コーナー②防空思想と総動員体制」の「221. 空襲・防空関係図書(1930~45)(国立国会図書館デジタルコレクション・検索結果)」「222.防空圖解第一輯『一般防空』(国立公文書館デジタルアーカイブ)」の Web ページが開き、スマートフォンで詳細情報が閲覧できるという仕掛けである。こうした公開されたデジタル資料は、同じく Web に記された権利上の留意点も確認した上で、展示キャプションにも表示した。

また 2023 年度展示では、映像も積極的に活用した。「コーナー②防空思想と総動員体制」では「233. 「夕張町防空大演習」」の映像を、また「「コーナー⑤伊勢原と「空襲」」では「531. 看護師の記憶 ~「死なばもろとも」歩いた 10 キロ (冨田フサ子さんインタビュー)」の映像を、タブレット PC を置いてループ再生を行い、その一部サムネイルや書き起こし記事を展示した。また、「コーナー⑥記憶に残る物語」「コーナー⑦原爆を知る一伊勢原市被爆者の会の活動」「コーナー⑧中学生は広島で何を見たか一中学生ヒロシマ平和の旅」では、過去に水島研究室が制作した映像のサムネイルを展示、別室で行った映像上映へ導線を設えた。

※なお、2023 年展示においては、展示品のデジタルアーカイブ化作業も並行して行った(展示品の撮影とキャプションの入力)。

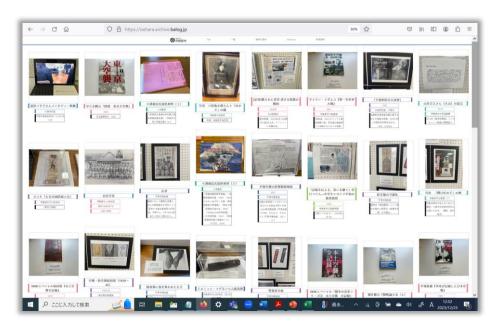


写真 2 2023 年展示資料を入力したデジタルアーカイブサイト https://isehara.archive.balog.jp/

4-3 見えてきた伊勢原市「平和事業」の全体像

「コーナー⑥記憶に残る物語」~「コーナー⑧中学生は広島で何を見たか」は、主に映像記録(サムネイル)と市民協働課がファイリングしていた資料を用い、さながら過去の「平和事業」をダイジェストするかのような展示スペースとなった。⑥では、2014 年度からのインタビュー映像、さらには現在進行形で行われているシリーズ「映像記録:伝えたい想いにのせて」の中に記録された伊勢原市内の空襲(主に機銃掃射)のエピソードが、⑦では「被爆者の会」の活動(映像サムネイル)及び大盛一郎会長、小渕義信副会長からの提供資料が、⑧では「中学生ヒロシマ平和の旅」を経験し東海大学生となった学生による過去の「旅」のサマリーと、2023 年度の「旅」の資料が並んだ。奇しくも、再開した「旅」の意義を再確認するために、2023年度の「旅」の事前学習は、大盛氏、小淵氏を交えてのワークショップとなった。これまでバラバラに見えていたアクションが、少しずつ相互につながり始めていた。

振り返れば伊勢原市の「平和事業」の全体像は、年表こそ Web サイトにも公開されているが、その「歴史」が総括され、まとめて提示されたことは筆者が知る限りない。1993 年 12 月に「伊勢原市平和都市宣言」が議決され、翌年 (94 年) その啓発活動がスタート。さらに翌 95年に初めての「中学生ヒロシマ平和の旅」が挙行されるようになっておよそ 30年。ちょうど「節目」となる年の展示が、これまでの様々な活動の関係性を見つめ直すきっかけとなったことは偶然とはいえ、時宜を得たものであったことは間違いない。惜しむらくは、そのことを十分に広報できなかった点にある。本稿を含め、2024年度の計画に向けてその「像」を、市民をはじめとした関心を抱く人々と、いかに幅広く共有できるかが課題となろう。

5. 展示と資料保存、メタデータ・スキーマの策定に関する知見

ここで本「研究ノート」当初の問題提起――「アーカイブ」を論じる際の、特にデジタル技術との関係に言及する際の、本来の主題である「誰の、何のための」という問いに立ち返りたい。それには権威主義的な記録の集積ではない、市民に開かれ、主体的にアクセスしうる「仕組み」「考え方」が必要だ――と筆者は述べた。この普遍的な問いと、伊勢原市という小さな自治体で行ってきた実践との間には、大きなギャップがあるように感じられるかもしれない。しかしその距離をメタデータ・スキーマが媒介することで、少しずつ埋めていくという考え方についてはどうだろうか。

「展示」と「デジタルアーカイブ」には、構造性という観点で捉え返すと多くの共通項を見出すことが可能になる。それが現物(一次)資料であれ複写やネットワークを介した参照(二次)資料であれ、「モノとことば」の接続が指し示しあう「記号の矢(index=LODのアーク)」の意味の契機としての役割は、思考のヴァーチャルと生きる(経験する、認識する)リアルとの間を行き来する回路を保証する 7。そしてそれらを閲覧する/回遊する行為は、その場にせよ、事後的にせよ、そこから生まれる発話を「記号の矢」の延長線上に指示し、対話の創出に貢献するだろう。本来、資料の保存は闇雲になされるものではなく、このような構造が織りなす関係性(スキーマ)を意識しつつ行われるべきなのだ。

ネット言説の疑似セオリーになってしまった「まずは党派性ありき」と「アテンション・エコノミー」のダブルバインドから脱する道も、そのヒントはデジタル環境にある。しかしそれは生成AIの様に、情報のオートノミーに軸足を置いていては可視化されないだろう。残念ながら(皮肉にも)戦争を考えることは、その入り口になる。それは「理不尽な命の奪い合いの組織化」という、オートノミーの究極の姿を対象化させるからだ。

2023 年末時点、愛と平和を祈るべき聖地で、戦禍が止まない現実が続いている。こうした歴 史の皮肉と真摯に向き合うには、学問の領野にも、愚直なる実践と接続する新しい方法が必要 なのである。

【付録1】2022年展示の目録

110 de 1		- 学 原市「平和を祈念するパネル展示」(平和史料)目録	
_	はいつから始まったか 15年戦争期年表	満州事変(1931)から15年間の出来事に『伊勢原市史』文書を照合。	水島研究室
			水島研究室/伊勢原市市
102	忠魂碑·出征記念碑	伊勢原には多く地域にの忠魂碑や出征を記念する石碑が残されている。	協働課
103	日清·日露戦争資料(1)	日清の役黄海激戦大パノラマ図<上野パノラマ館/浅草西鳥越金上印刷所>	伊勢原市文化財担当
104	日清·日露戦争資料(2)	明治卅七八年戰役從軍章。	伊勢原市文化財担当
105	日清·日露戦争資料(3)	戦役寄付金報奨状。①<明治27、28年>②<明治37、38年> <神奈川県知事>より	伊勢原市文化財担当
106	日清·日露戦争資料(4)	八幡神社皇軍全勝軍人健全祈祷御璽。日露戦役の軍功が裏面に記載。	伊勢原市文化財担当
満州署	- 事変から太平洋戦争へ		
201	【書籍展示】満州移民について	(略)	水島研究室
202	~1 日中戦争資料(1)	支那事變軟鬪経過要圖(事變勃発ヨリ十二月下旬迄ノ間)週報第六十四號附録<昭和13年1月5	伊勢原市文化財担当
	~2 日中戦争資料(2)	日> (陸軍省新聞班/海軍省海軍軍事普及部> 支那事變第一年戦闘経過圏 週報第九十號附録<昭和十三年六月下旬状況> (陸軍省新聞班 /海軍省海軍軍事普及部>	伊勢原市文化財担当
203	日中戦争資料(3)	支那事変従軍徽章2個 〈造幣局製〉	伊勢原市文化財担当
204	雑誌(『サンデー毎日』)	サンデー毎日支那事変特集号<昭和12年11月15日発行>	伊勢原市文化財担当
兵士の)いでたち		
301	~1 軍服上のみ	昭和一三年制式・九八式軍衣と思われる<昭和16年製>	伊勢原市文化財担当
	~2 軍服下のみ	陸軍 昭五式軍袴と思われる<昭和13年製>	伊勢原市文化財担当
302	~1 軍装品(水筒)(1)	昭五年式水筒 陸軍下士官用	伊勢原市文化財担当
	~2 軍装品(水筒)(2)	海軍用水筒	伊勢原市文化財担当
	~3 軍装品(飯盒)	口号飯盒	伊勢原市文化財担当
-	~4 軍装品(ゲートル)	騎兵または将校用の革製脚絆(きゃはん)	伊勢原市文化財担当
303	~1 軍装品(鉄兜)	九〇式鉄帽	伊勢原市文化財担当
	~2 軍装品(陶製手榴弾)	海軍製 手榴弾四型 物資の不足により、本来金属製の弾殻を陶器で代用	伊勢原市文化財担当
	【書籍展示】軍装について	(略)	水島研究室
敗兵検	査から入営へ		
401	~1 微兵検査関係文書(1)	昭和十一年度徴兵検査及抽選ノ日時并々徴兵署ノ場所/徴兵署出頭に関スル注意<昭和11年 ><比々多村差出>	伊勢原市文化財担当
	~2 微兵檢查關係文書(2)	常識トニ関スル注章〈昭和11年頃〉〈比々名村美出〉	伊勢原市文化財担当
	~3 微兵検査関係文書(3)	数兵検査と兵役關係一覧圖、壮丁の心得並注意事項〈岐阜聯隊區司令部〉	伊勢原市文化財担当
402	出征記念品(日章旗)	海軍の技術士官ら上官・同僚に加え、多くの激励の言葉が寄せられている	伊勢原市文化財担当
$\overline{}$	出征兵士を送る旗	<峯尾呉服店> 材質:紙	大磯町郷土資料館
404	絵はがき(軍隊生活)	< 小野寺秋風画、武揚書店発行>入営から除隊までの軍隊の中の生活を会話を交えてマンガ的	伊勢原市文化財担当
		に紹介。	D 23101174103172
405	記念写真(出征時)	比々多村	伊勢原市文化財担当
406	~1 入営に関する記録(1)	徴兵検査から横須賀重砲兵聯隊に入営するまでの記録(会合、祝儀、見舞などの一覧) <昭和11 ~12年>	伊勢原市文化財担当
	~2 入営に関する記録(2)	入営後の時候のあいさつ①入営一年後(寒中)の挨拶<昭和13年2月>、②新緑の挨拶 (戦地に赴く挨拶) <昭和13年5月>	伊勢原市文化財担当
\rightarrow	~3 軍人御守	大山寺守札(①軍人健全不動尊守護(②開遷御守護(③「大山御供」)、勝守(「奉加持妙経神口口)、 奥山半僧房軍人御守、大雄山御守	伊勢原市文化財担当
	軍事郵便	差出人は、第3軍第1師団騎兵第1第3中隊に所属<1904年(明治37)10月8日>	大磯町郷土資料館
さまざぇ	まな銃後組織		
501	[書籍展示]在郷軍人会·大日本国防婦人会	(略)	水島研究室
502	タスキ(大日本國防婦人会)	<東京三越製>	伊勢原市文化財担当
	爱国婦人双六	愛国婦人会の活動内容を、双六で紹介 <1934年(昭和9) >	大磯町郷土資料館
-	~1 奉公袋	召集の際に兵士が持参する袋	伊勢原市文化財担当
	~2 軍隊手帳	所属する連隊や経歴、天皇が直接下した軍人勅諭、行動規範を示した戦陣訓などが記されている。	伊勢原市文化財担当
	~3 雑誌(『訓練』)	<帝国在郷軍人会本部発行><1928年(昭和3)11·12月号/ 1929年(昭和4)1月号>	大磯町郷土資料館
	~4 通達文書(献納活動)	「大山町における日中戦争開始一周年記念一戸一品献納運動」<昭和13年6月>	『伊勢原市史』
		武運長久(戦いでの幸運が長く続く)の文字	伊勢原市文化財担当
505	十人針		
505 1資不	足と生活統制		
505 1資不	足と生活統制 ~1 陶製ガスコンロ	物質不足により鉄の代用として使用。	大磯町郷土資料館
505 資不 601	足と生活統制 ~1 陶製ガスコンロ ~2 代用飾(鏡餅)	食糧不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。	大磯町郷土資料館
505 資不 601 603	足と生活統制 ~1 陶製ガスコンロ ~2 代用飾(鏡餅) 通達文書(服装簡素化)	会種不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装簡素化機能事項」<昭和18年>	大磯町郷土資料館『伊勢原市史』
505 資不 601 603	足と生活統制 ~1 陶製ガスコンロ ~2 代用飾(鏡餅)	食糧不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。	大磯町郷土資料館
505 資本 601 603 604	足と生活統制 ~1 陶製ガスコンロ ~2 代用飾(鏡餅) 通達文書(服装簡素化)	会種不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装簡素化機能事項」<昭和18年>	大磯町郷土資料館『伊勢原市史』
505 資本 601 603 604 605	足と生活技制 ~1 陶製ガスコンロ ~2 代用飾(鏡餅) 通達文書(服装簡素化) 通達文書(灯火管制)	食種不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装商素化機能事項」<昭和15年> 「昭和十二年度関東防室楽習比々多村筋護団に関する協議会開催通知」<昭和12年8月>	大磯町郷土資料館 『伊勢原市史』 『伊勢原市史』 大磯町郷土資料館
505 資本 601 603 604 605 606	24年末は制 ・ 期限ガスコンロ ・ 2 代用等(競群) 通達文書(別支管第七) 通達文書(別支管第七) 通達文書(別支管第七) ・ 2 雑誌 『婦人俱楽部』 ・ 2 雑誌 『富士』	食種不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装商素化機能事項」<昭和15年> 「昭和十二年度関東防空楽習比々多村筋護団に関する協議会開催通知」<昭和12年8月> 空襲の際、退避セず消火に努めることが推奨された。<大日本防火協会製>	大磯町郷土資料館 『伊勢原市史』 『伊勢原市史』 大磯町郷土資料館 木島研究室/伊勢原市市 協働課 木島研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働部
505 資本 601 603 604 605 606 606	24年末は前 1 期限ガスコンロ 2 代用節(鏡辞) 通道文章(機能除無化) 通道文章(機能除無化) 通道文章(原外等制) 防空用島(消火等) 1 雑誌『第人俱楽部』 1 雑誌『富士』 1 雑誌『日の出』	会理不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比小多村服服商素化碗飯事項」(昭和19年) 「昭和十二年度関東防空漢事社へ多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年8月> 空襲の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 大日本婚開會講談社発行(昭和19年1月号> 大日本婚開會講談社発行	大磯町郷土資料館 『伊勢原市史』 『伊勢原市史』 大磯町郷土資料館 木島研究室/伊勢原市市 協働課 木島研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働部
505 資本 601 603 604 605 606 606	24年末は前 1 期限ガスコンロ 2 代用節(鏡辞) 通道文章(機能除無化) 通道文章(機能除無化) 通道文章(原外等制) 防空用島(消火等) 1 雑誌『第人俱楽部』 1 雑誌『富士』 1 雑誌『日の出』	会理不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比小多村服服商素化碗飯事項」(昭和19年) 「昭和十二年度関東防空漢事社へ多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年8月> 空襲の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 大日本婚開會講談社発行(昭和19年1月号> 大日本婚開會講談社発行	大磯町郷土資料館 『伊勢原市史』 『伊勢原市史』 大地島研究室/伊勢原市市 協働課 水島研究室/伊勢原市市 松島研究室/伊勢原市市 水島研究室/伊勢原市市
505 第 資 不 601 603 604 605 606 606	24年末は制 ・ 物製ガスコンロ ・ 作用等(競争) - 通道文書(開美物素化) - 通道文書(開美物素化) - 通道文書(別火等制) - 防空用品(別火等) ・ 雑誌 『部 人俱楽部』 ・ 雑誌 『田の出ませま	会理不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比小多村服服商素化碗飯事項」(昭和19年) 「昭和十二年度関東防空漢事社へ多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年8月> 空襲の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 大日本婚開會講談社発行(昭和19年1月号> 大日本婚開會講談社発行	大磯町郷土資料館 『伊勢原市史』 『伊勢原市史』 大地島研究室/伊勢原市市 協働課 水島研究室/伊勢原市市 松島研究室/伊勢原市市 水島研究室/伊勢原市市
505 第 資 不 601 603 604 605 606 606	選挙等は制 1 胸膜ガスコンロ 2 代用等(鏡辞) 通速文章(関鍵除素化) 通速文章(阿皮特素化) 通速文章(阿皮特素化) 1 雑誌『婦人(原業部』 2 雑誌『富士』 3 雑誌『日の出』	食理不足から期疑の代用品として使われた鏡餅。 「比少多村服装商業化機能事項」(可和11年9 > 「昭和十二年度関東防空演習比や多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和11年9月) > 空業の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈太日本防火協会製〉 大日本原用會講談社発行〈昭和19年1月号〉 大日本原用會講談社発行〈昭和19年1月号〉 大日本原用會講談社発行 新潮社発行	大磯町郷土資料館 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 大磯町郷土資料館 大磯町郷土資料館 木島研究室/伊勢原市市 協働課 木島研究室/伊勢原市市 協働課
505 505 601 603 604 605 606 606 606 701 702	24年末は19 1 陶製ガスコンロ 1 代用等(競評) 通道文章(製養除素化) 通道文章(製養除素化) 通道文章(製養除素化) 通道文章(製養除素化) 1 雑誌『婦人俱楽部』 1 雑誌『高士』 1 福誌『日の出』 1 1 旧動中学制版(1) 2 日動中学制版(2) 受國和筆	食理不足から期疑の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装開業化能産事項」(昭和19年) 「昭和十二年度開東防空濃留比々多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年9月) 空製の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 大日本協併會講談社発行(昭和19年1月号) 大日本協併會講談社発行(新潮社発行 新潮社発行 「自の学生服のブランドカンコーの前身) 12制厚本中学制版 〈神奈川県洋服商業組合〉 〈昭和13年〉 H8	大國市經上資料館 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 大島研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 協働研究室/伊勢原市市 民協働研究 伊勢原市市民協働 伊伊勢原市市民協働 伊伊勢原市大化財団
505 505 601 603 604 605 606 606 606 701 702	24年底は制 1 期限ガスコンロ 2 代用修(競評) 通道文章(領技能第1) 通道文章(領技能第4) 通道文章(領技能第4) 1 補結『婦人俱楽部』 2 補結『富士』 3 補誌『日の出』 1 目前中学制版(1) 2 旧刺中学制版(2)	会理不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比小多村服装簡素化碗度事項」(昭和18年) 「昭和十二年度開東防空演習比へ多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年8月> 空製の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 太日本越師會講談社発行(昭和18年1月号> 太日本越師會講談社発行 新湖社発行 (菅公製ン(今日の学生服のブランドカンコーの前身) 旧制厚木中学制服 〈神会川県洋服商業組合〉 〈昭和13年> HB 第四期間定修身教料書《1959年(昭和121)>	大磯町郷土資料館 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 大磯町郷土資料館 大磯研究室/伊勢原市市 協働線 水島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 長協働線
505 505 601 603 604 605 606 606 606 701 702 703	24年末は19 1 陶製ガスコンロ 1 代用等(競評) 通道文章(製養除素化) 通道文章(製養除素化) 通道文章(製養除素化) 通道文章(製養除素化) 1 雑誌『婦人俱楽部』 1 雑誌『高士』 1 福誌『日の出』 1 1 旧動中学制版(1) 2 日動中学制版(2) 受國和筆	食理不足から期製の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装商業化複雑事項」(可和12年2月) 「昭和十二年度開業的空濃留比々多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年2月) 空業の際、退避せず消火に努めることが根契された。〈太日本筋火協会製〉 大日本協開音講談社発行〈昭和19年1月号〉 大日本協開音講談社発行 新湖社発行 〈官公製〉(今日の学生服のブランドカンコーの前身) 日制厚本中学制版 〈神奈川県洋原商業組合〉〈昭和13年〉 148 第四期間定修身後料書(1939年(昭和124)〉 編井ガン花さん(昭和18年3:大田)、山岸正江さん(昭和11年:大山)の小学生(観時下)の記憶。	大國司經上資料館 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 大島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 在監影研究室/伊勢原市市 医影研 伊勢原市市民協聯展 伊勢原市文化財担当 大國新第五十八國新
505 505 507 601 603 604 605 606 606 606 701 702 703 704	定体系は制 1 期限ガスコンロ 2 代用館(競) 通道文書(超談競法化) 通道文書(超談競法化) 通道文書(初文管制) 防空用品(消火物) 1 雑誌『婦人俱楽部』 2 雑誌『富士』 3 雑誌『日の出 ** 1 旧朝中学制版(1) 2 旧朝中学制版(2) 使動物学	会理不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村級展開素化物館事項」(昭和1年9 「昭和十二年度開東防空漢習比々多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年9月) 空製の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 太日本期間會議談社発行(「昭和19年1月号) 太日本期間會議談社発行 財制社長行 《官公製ン(今日の学生服のブランドカンコーの前身) 旧制淳木中学制服 〈神奈川県洋葱原業組合〉 〈昭和13年>	大國町級土資料館 「伊勢原而中史」 「伊勢原而中史」 大磯町郷土資料館 木魚研究室/伊勢原市市 北協働島研究室/伊勢原市市 北協働島研究室/伊勢原市市 北協働島研究室/伊勢原市市 北協働 伊勢原市市中民協働護 伊勢原市市中民協働護 伊勢原市大陸和 大磯町郷土資料館 木島研究室/伊勢原市市 大磯衛町郷土資料館 木島働銀
505 第資不 601 603 604 605 606 606 606 701 702 703 704 705	定任年末就制 ・ 物製方スコンロ ・ 物製方スコンロ ・ 化用等(競)・ 通道文章(超級前素化) 通道文章(超級前素化) 通道文章(引火管制) 防空用島(消火弾) ・ 雑誌 『海人俱楽部』 ・ 2 雑誌 『富士』 ・ 1 即制中学制版(1) ・ 1 即制中学制版(2) ・ 2 回動中学制版(2) ・ 受難的筆	食理不足から期製の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装商業化複雑事項」(可和12年2月) 「昭和十二年度開業的空濃留比々多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年2月) 空業の際、退避せず消火に努めることが根契された。〈太日本筋火協会製〉 大日本協開音講談社発行〈昭和19年1月号〉 大日本協開音講談社発行 新湖社発行 〈官公製〉(今日の学生服のブランドカンコーの前身) 日制厚本中学制版 〈神奈川県洋原商業組合〉〈昭和13年〉 148 第四期間定修身後料書(1939年(昭和124)〉 編井ガン花さん(昭和18年3:大田)、山岸正江さん(昭和11年:大山)の小学生(観時下)の記憶。	大國司經上資料館 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 「伊勢原市史」 大島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 大島研究室/伊勢原市市 在監影研究室/伊勢原市市 医影研 伊勢原市市民協聯展 伊勢原市文化財担当 大國新第五十八國新
505 方不 601 603 604 605 606 606 606 701 702 703 704 705 801	2 建工事 (計) 1 期限ガスコンロ 2 代用館(競群) 通道文書(別女管制) 防空用息(別女管制) 防空用息(別女管制) 防空用息(別女管制) 1 雑誌 『諦人俱楽部』 2 雑誌 『高土』 3 雑誌 『日の出』 1 旧制中学制版(1) 2 旧制中学制版(2) 愛閣和筆 特殊介学技教料章(修身) 体験者インタビュー 大田小学校創立記念誌 2 近のからい申 1 児童による影問島(1)	会種不足から陶製の代用品として使われた鏡餅。 「比小多片階級開業化機能事項」(昭和1年9 「昭和十二年度開東防空漢部比へ多村防護間に関する協議会開催通知」(昭和12年8月> 空襲の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 大日本趙阳會講談社発行(昭和18年1月号> 大日本趙阳會講談社発行 新潮社発行 「管公製ン(今日の学生服のブランドカンコーの前身) 旧制厚水中学制服 〈神奈川県洋服商業組合〉 〈昭和13年> 18 第四期間定修身教料書〈1939年(昭和14)〉 電井アジエさん(昭和18年1大田)、山岸正正さん(昭和11年1大山)の小学生(戦時下)の配信。 〈2015、2015年収録》 〈90周年(昭和159年)、100周年(昭和49年)〉 作文、哲学(比々多得宗高等小学校四学年)〈昭和12、13年>	大磯町班土資料館 「伊勢原布史」 「伊勢原布史」 「伊勢原布史」 大磯町郷土資料館 木魚研究室/伊勢原市市 北協働島研究室/伊勢原市市 北協働島研究室/伊勢原市市 北協働 伊勢原市市市民協協議 伊勢原市市市民協協議 伊勢原市大陸相当 大磯町郷土資料館 木魚研究室/伊勢原市市 北島衛町郷土資料館
505 505 505 601 603 604 605 606 606 606 702 703 704 705 801	定任年底執動 ・ 物製方スコンロ ・ 物製方スコンロ ・ 化用館(競) 通道文書(服装簡素化) 通道文書(所接) 通道文書(所決策) ・ 対話『婦人俱楽部』 ・ 対話『母の田』 ・	食理不足から期疑の代用品として使われた鏡餅。 「比々多村服装開業化複雑事項」(昭和1年) 「昭和十二年度開東防空漢習比々多村防護団に関する協議会開催通知」(昭和12年9月) 空襲の際、退避せず消火に努めることが推奨された。〈大日本防火協会製〉 大日本期間會講談社発行(昭和19年1月号) 大日本期間會講談社発行 訪湖社発行 訪湖社発行 訪湖社発行 訪湖社発行 新湖社祭(中の学生服のブランドカンコーの前身) 印制厚本中学制版 〈神奈川県洋服商業組合〉 〈昭和13年〉 H8 第四期原定券段新年9199年(昭和14)〉 由サブジ之を人間初8年生、大田)、山岸正江さん(昭和11年: 大山)の小学生(戦時下)の記憶。 〈2015、2016年収録〉 〈50周年(昭和19年)、100周年(昭和19年)〉	大國町原土資料館 「伊勢原市史』 「伊勢原市史』 「伊勢原市史』 大島町原土資料館 大島銀研究室/伊勢原市市 民島駅突変/伊勢原市市 民島駅突変/伊勢原市市 民島駅突変/伊勢原市市 民島駅 伊勢原市市民協聯選 伊勢原市民協聯選 伊勢原市民協聯選 伊勢原市市民協聯選 伊勢原市市民協聯選 伊勢原市市民協聯選 伊勢原市市民協聯選 伊勢原市大民時村島 大島衛襲第 伊勢原市大民時村島 大島衛襲第 伊勢原市大民時村島 大島衛襲第 伊勢原市大民時村島

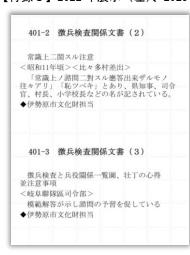
【付録2】2023年展示の目録

令和5年度伊勢原市「平和を祈念するパネル展示」(特集:「空襲から平和を考える」)目録

1.32	製とは何	かを知る		
	限と支援			
111	京都展示	サイモン・アダムス「第一次世界大地」	[同居舎、2001] ビジェアル博物館第87巻。飛行機の戦器投入と 空間のほじまりを収解。	伊勢原市立図書館
112	宗教展示	瀬川御公「世間線大系(6)ドゥーエ」	[美容書用出版, 2002]初めて「根明様草」を理論化した著書 「制力」(1921)を研収。	東海大学水島研究室
113	DERR	前田哲男「軽視様草の思想ーゲルニカ・重要・広島へ の軌跡」	【朝日新聞社、1988】 施援準期から直株消を 経て「ヒロシマ」 に至る無差別標準の系速。	伊斯原布立図書館
114	DEKS	古田一郎「ドキーリトル日本初空襲」	[三省章、1982] 太平洋戦争開始後わずか5か月の1942年4月18 日に東京を825が、背景の首所を考える。	伊勒原本立図書館
115	ORES.	平塚祖籍「木革が記録した日本空襲」	[単単社、1995] 市鉄の前後に開新を目標に発常したB29による目標都不の写真(米国防省階)。	伊斯原韦立図書館
116	安置無水	東京空間を記録する会「東京大空間の記録」	[三省堂、1982]「東京空間を記録する会」は1970年より空散・ 既災の文献や物品を広く収集してまた。	伊斯斯书立図書館
117	四套灰爪	NHKスペシャル取材モ『本土豆製全記録』	[KADOKAWA, 2018] 番目は2017年8月改造。木戦闘機に装備を れた「ガンカメラ」が捉えた「空海の視点」。	伊勢原本立図書館
121	俄写資料	[京都]各地の支援・全国の都市を関った支援	[毎日期間、2015年4月21日]シリーズ「干の延雲/戦後70年」よ リ	神田前間社
122	推写资料	[記事]限まれた真実 透ける散戦の構図	[東京新聞, 2022年6月16日朝刊15前] 本土初, ドーリットル 京祭80年。	中日制制社
123	报写資料	[公文書]昭和二十年、宣樂被害状況報告	各地方検事正言り司法大臣用ノモノ (国立公文書館デジタル アーカイブ)	国立国会国書館
110	空思駅と	尼勒長件別		
211	実物展示	タスキ「大日本面前婦人会」	(東京三城製)	伊勢原市文化時担当
212	安物医尔	防里域中	ひさしや菜を覆うまち、口元の覆いによって火の粉が貼げるよう に工火している	平球不够快概
213	实物展示	ガスマスケ	旧和13年、旧和加工株式会社製。	伊勢原本文化財損毒 (及川利雄氏毒機)
214	被写真科	智能発令板	京装は旧市内では火茶筋や各工場のサイレンで周知されたが、旧 市外では碧褐発令板で周知された。	平球不博物館
215	被写真科	筋密維の守護机	戦的中「個助観音」として信仰を集めた報思寺(税期市寺局)の 守護札。	平域市博物館
221	夜写資料	立領·防空間係回着 (1930~45)	漁州事変保から、故多くの書籍が刊行された。年代を終るごとに 時間を反映している。 (原立国会図書館デジタルコレクション) ※QRコード: 国立図会図書館デイトの検索結果	国立国会国書館
222	推写資料	范克莱斯第一輯「一般防空」	総和13年6月、東部・中部・西部各別衛司令部の指導の下。ホ 十字博物館が編纂した辞祭ポスター(図立公文書館デジタルアー カイブ)=QRコード:図立公文書館サイト。	図立公文書館デジタ/ アーカイブ
231	很写資料	(MW)	佐草健氏 (平塚不中線、1926-2017) が後年に記憶をもとに描い たポールペン画、1933年8月の関東防空海管の様子を描く。	平标市牌物图
232	表写资料	「夕張町防食大清報」	初期防空走防音及期の様子を伝える青華な映像。28分54秒 [9 係町防空音及会様か、1932、9.5mm]	水島研究室、夕張市
	MRKII.	「夕徳町防空大浦賀」	初期的空差型背及期の除了を伝える責重な映像。28分54秒 [タ 毎月的空音及会議か、1932、9.5mm]	水品研究室、夕佳市
7.1	6千年宝	腰一大照模都市爆撃の実相		
311	表写資料	平塚立御の投弾範囲地図	末軍の参加用リトモザイクに記された平敷途中界=干債12km 特別展認録「平塚忠謙 その時、それまで、それから」(平塚市 博物館、2021) より	平原市排物館
312	夜写資料	避難經濟區	「平様の意識と観光を記録する会」でおこなった意識体験者への 概念取り調査によって、明らかになった避難経路を地震に落とし たもの。	平球市排物館
321	RBES	テルミット・マグネシウム放実性	平様空間では主にこのM50役が110個単乗された規則後が無いられた。 直轄省が空間後的いに行ったもの。	伊勢原本文化財担当 (及川利雄氏青睐)
322	実物展示	当けた破貨	(平原立開展) 2023本リ (平原市博物館)	平年市博物館
323	被写資料	値けた右回・甲	「平塚立御展」20234年 (平塚市博物館)	干球市消防器
		永峰光日記と不評	京城県立爵士中学校4年、永禄光さんは学徒動員で海軍大業路は 入り、總美隊の直撃で亡くなった。その動分日記と弔跡。京城県 立居生中学校4年、永禄光る人は学徒製員で海軍支援副に入り、 映裏等の選挙立てくなった。その動名日記と弔跡。	
333	表写资料	伝道	総的において難席の反照人、兵士の戦差差失を目的として配布す も常伝課権用の日前物、平塚でも、7月16日の前後に上型から無 かれた。	平塚市博物館

	SC#/0138			
Т			共国をかぶって先元を保護しながら退却するとは、他共和が不に	
422	2000年日	供用値に指着性われた左手	あたった、特別問題様「干燥り無 そのけ、それまで、それを	平線市特別級
-1			6.J (TW83988, 2021) AV	
╛			「子供の引導と和災性別様でもの」と子供の特別的は、共享に対	
			が市民から空間の総を募集してきた。平田武器(中間、八曽神	
9	在工具科	言葉の社	H) 江南田 (夕陽水川) 松本ヤヤ子 (新町2丁田) 古谷立札 (日	中华苏林市民
- 1			600	
	STEE		[世俗子稿子、1986] 作者其子语第二国民学校 (世港小学校) 四	PERMIS
400	東与京科	祖之祖 [おもいでのなつ]	作員だった。	-season
423	7714	シリーズ (わたしと物や)	オウンエュース (平原版) 、2017~	タランニュース
24	SHE	TRACES WEST	平原の意識と特別を記録する会	FIXERBUIL
25	SERE	[F#EM enh, ents, ents]	2021 4 36 80 9 10 80 20 8	平原石梯物區
\neg			平原中等教育学校の2000年入学生有古は1年次有干和学習を契律	
22	医下宫科	「平原を開発すんだこと」に関するひと言コメント	に3年間にわたり、平田一家市一点市の「京田」を、明治を京ね	平原十五数五字位
			サルできました 。	
.9	製原で空	を見上げる		
01	物源と「	0:M)		
т			MBD この知道米軍の記録によると7月18日には日下されていな	
111	TREE.	伊賀県市技術館で見つかった地英様	o, Himin Pesa com, coro, cocol (F	节提书拼物报
1			MERROR 2021 AV	
122	xnic.	0.55	効果のものだが、音楽は描えて手気が進用していた。依似。	伊姆市市文化批准
+			DEMONS, 40 PROPRESENTAL MARKET FROM	
111	意で食料	日田に刊する内化文書	の中部市場の人の主法」より	水南研究室
123	STALL	亀井アジエをん (百百) の包含	2016年「新中田報報」インタビュー 小松田は田田田で	ク製剤さる大量を選
-		SHEEDER - TESHESES SUSIDER		
532	STRIL	(第四フマテキルインタビュー)	編集:デオー等教育学校特別干权大党	
532	9085	延行フサテオルインオビュー担告	平洋中等教育学校はで 2021年12月	水系研究室
				オランニュースを担
-	東写真科	(わたしと初り) 特別線 父の作人 78年前で対面	第四フサテきん:タウンニュース 2021年9月23日	8.9
	RVRH	「丸の砂沼」からの書き起こし一伊奈田に関する記述	平理の支援と就芸を記録する会「共の証明」会監号を、平理中	THOMESON
714	W-0 M-11	INCHES STOREST CO-PRODUCTIVE	等数男学位計訂平板大量メンバーが消費	THY ORNEYS.
. 2	STEELS	市 语		
111	祖写良日	山岸正江をん (大山) の証明	2014年「戦争保険者」インスピュー 一般保証指数室で	の気がありませま活
012	HAR-	(表面甲醛胡桃四层排) 一片润滑用色色管压器 (11.明书学童集团政策社会处 11.明书学童具禁犯会政理企業行委員	伊斯斯市大山公田原
		(DBJ85871)	0. 1985	
533		1.100000072.7		
	even		研究は毎年を記えるにあなり課品、四時を全面開始秩序点広場	
-1	医写真科	NR (NITION) ON		
+	東写真日 東写真日	写真 「探げ打の子」の終 八田電大所を人の発展 「作えないがいを展せて タ	研究は毎年を記えるにあなり課品、四時を全面開始秩序点広場	
123	電写真目	年度 「探け行の子」の呼 人田北北郎を人の作品 「位えたいがいを示せて か 開放主」より	終的40年年記えるにあたり原設。川地市生品総社技的公式場 にもある。(縁即:直内撃化) 2003年制作 一級機は搭除化で	があるの数据(7 が始める大仏物語
121	表示表に 実売高さ	写真 「除けむの子」の様 小田竜上所を人の発施 「住えない思いを見せて 伊 財産之」より 写真 八田竜上郎を人と「中のリ」の様	財務が開発を支配されていまた。1985年前期が開発に広告 にもある。(横原:自内管北) 2023年前代 今後市は開発まで 年度:伊朗市市大阪団	伊勢県市広知課(7 伊勢県市市大弘総課 伊奈県市法別位
100	復写責料 実物第6 度写真料	写真 「探け目の子」の呼 ハ田友工所を人の物語 「你之句い恨いを飛せて 伊 解放王」より 写真 ハ田英工所を人と「ゆきり」の雑 即手を組まる人 (単大作) の設置	終的40年年記えるにあたり原設。川地市生品総社技的公式場 にもある。(縁即:直内撃化) 2003年制作 一級機は搭除化で	があるの数据(7 が始める大仏物語
100	表示表に 実売高さ	写真 「除けむの子」の様 小田竜上所を人の発施 「住えない思いを見せて 伊 財産之」より 写真 八田竜上郎を人と「中のリ」の様	財務が開発を支配されていまた。1985年前期が開発に広告 にもある。(横原:自内管北) 2023年前代 今後市は開発まで 年度:伊朗市市大阪団	伊勢県市広知課 (7) 伊勢県市市共協衛課 伊勢県市水田団
623 624 624	度写真的 変句真白 度写真的 (基本)	写真 「様々形の子」の呼 ハ田恵工用を人の作用 「供えない切いを乗せて の 財産上」は 「 写真 八田恵工的を人 によれり、の原 中中を組合人、(はよれり、の原 「(知を加える、 別い事業で)、(私を人一戸時原不知	用機な関手を記よるにあたり開放。17時の主意維持的の広場 はある。(標準:前代管約) 2023年4月 ・ 砂磨は原数で 可渡:中間をおお記 2025年 「指令可能者」インタビュー ・特殊は用数室で	伊斯県市の直接 (?) 伊斯県市の大品南部 伊斯県市場の位 伊南県市市大品南部 伊南県市市大品南部
623 624 624	復写責料 実物第6 度写真料	写真 「関付日の子」の例 人間先生用するの物語 「依えない切いを発せて 伊 財産上」より 写真 「心能太郎からえ」(中かり)の語 部中を収まる (東大中)の計算 一次記憶を記述者の合の試験 「国際を収える。記述報の1日よる人一学別非不能 番号の治	財務が開発を支配されていまた。1985年前期が開発に広告 にもある。(横原:自内管北) 2023年前代 今後市は開発まで 年度:伊朗市市大阪団	伊勢県市広知課 (7) 伊勢県市市共協衛課 伊勢県市水田団
122	根写真科 文物菜点 根写真料 体質真料 体質資料	写版 (様付がのす)の様 小田竜北京もんの物館 / 他人ない切りを集中で の 財産上」を7 研究 / 小田東北京の人で、「中かり」の館 (日本年記を人・様大力)の設施 「「日本音記を表」かりを10 代える人一中商店市場 場合の会 「日本音記を表」がある。「「日本音記を入るのこと」 「日本音記を表」がある。「「日本音記を入るのこと」 「日本音記を入るのこと」「日本音記を入るのこと」	明年20年1日4日本の大学院、明年を前後世界の広報 日本事業、(日本) 日本学会 20日本日 - 中国本田学会 20日本日 - 中国本田学会 日本 (中国本田) 20日本日 日本 (中国本田) 20日本日 日本 (中国本日) 20日本日日	伊斯県市広知道 (7 伊斯県市市大田市道 伊斯県市市地元道 伊斯県市市大田市道 伊斯県市の大田市道 伊斯県市の大田市道
104 104 111	度写真科 文物层点 度写真科 度写真科 度写真科	写真 「探付担の子」の呼 ハルカルボルを乗せて P 利用を対象をもの形態 (ひよちいボルを乗せて P 可見 ハボモエガラルと「タセリ」の様 10年末日と、「東大力」の旧版 「10年末日と、「東大力」の日版 「10年末日と、東大力」の日版 「10年末日と、東大力」の日版 「10年末日と、「大力」の日版を入一戸所用が組 関連のため、「大力」の日、「共産主義」とつこじ、 「10年末日に関するとことでき、 「一戸の手を開発的のとことでき、	開発の発生を見るこれが、実際、1980年を開発を持ち、近年 立ちる。 (報知: 日内で記) 2021年間 「中部省内が記 2023年 「日本日本内が記 2023年 「日本日本日本内が記 2023年 「日本日本日本内が記 2023年 「日本日本日本内が記 2023年 「日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	伊斯德市広報課(7 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課
621 622 624 711 712	根写真科 文物菜点 根写真料 体質真料 体質資料	写版 (様付がのす)の様 小田竜北京もんの物館 / 他人ない切りを集中で の 財産上」を7 研究 / 小田東北京の人で、「中かり」の館 (日本年記を人・様大力)の設施 「「日本音記を表」かりを10 代える人一中商店市場 場合の会 「日本音記を表」がある。「「日本音記を入るのこと」 「日本音記を表」がある。「「日本音記を入るのこと」 「日本音記を入るのこと」「日本音記を入るのこと」	明年2日年1日4日 - 日本日本(中国)、10年を前報告的が、近年 2014年 (日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	伊斯県市広知道 (7 伊斯県市市大田市道 伊斯県市市地元道 伊斯県市市大田市道 伊斯県市の大田市道 伊斯県市の大田市道
122 124 124 124 122	度写真科 文物层点 度写真科 度写真科 度写真科	写真 「探付担の子」の呼 ハルカルボルを乗せて P 利用を対象をもの形態 (ひよちいボルを乗せて P 可見 ハボモエガラルと「タセリ」の様 10年末日と、「東大力」の旧版 「10年末日と、「東大力」の日版 「10年末日と、東大力」の日版 「10年末日と、東大力」の日版 「10年末日と、「大力」の日版を入一戸所用が組 関連のため、「大力」の日、「共産主義」とつこじ、 「10年末日に関するとことでき、 「一戸の手を開発的のとことでき、	何の名式をである。これで、2月35、10分を上級を目れた。これ なるよ。(日本 10分を) 2023年以下 一切のは日本大学 実施しておからの知道 2023年以下 「日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	伊斯德市広報課(7 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課 伊斯德市市民協報課
622 622 624 711 722	根写真料 実物展点 度写真料 機写真料 度写真料 度写真料	製造 「銀付払の子」の研 人の株式があるの情報 「但点ないでしますで で 製造」となり 製造」となり 製造」となり 製造」となり 製造」の構造を表現であるのは 「同様である。またまで、「の機能をなる」となっ 場合の他 に関係を表現を表現である。 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となる。 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「のをなる。 「のをなる。 「のをなる。	明年記録を登れるこれが「選出」、198号を開発的形式に発 との表も、(日本 19年間) 2023年前17 「特別本規則をで を対 19年の表別は 2023年 (日本 1975年)、アンドエー 「特別本規則をで 出版 (「七世 45」、2023年月1日 2023年 (日本 1975年)、2023年月1日 2023年 (日本 1975年)、2023年月1日 7月日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	伊斯県市の大田道(?) 伊斯県市市大田衛道 伊斯県市地沢住 伊斯県市山北南道 伊斯県市山北南道 伊斯県市山北南道 伊斯県市西大山南道 大道一郎
622 622 624 711 722	根写真料 実物展点 度写真料 機写真料 度写真料 度写真料	製造 「銀付払の子」の研 人の株式があるの情報 「但点ないでしますで で 製造」となり 製造」となり 製造」となり 製造」となり 製造」の構造を表現であるのは 「同様である。またまで、「の機能をなる」となっ 場合の他 に関係を表現を表現である。 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となる。 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「のをなる。 「のをなる。 「のをなる。	明年3月9日 日本日本で選出、1989年末日本日本の日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	伊斯泰市広報課(? 伊斯泰市古北坡衛建 伊斯泰市古北坡衛建 伊斯泰市古北坡衛建 伊斯泰市古北坡衛建 大選一郎 小河南西
122 124 124 124 122 123	根写真料 実物展点 模写真料 健型開発 様写真料 表写真料 ファイル ファイル	製造 「銀付払の子」の研 人の株式があるの情報 「但点ないでしますで で 製造」となり 製造」となり 製造」となり 製造」となり 製造」の構造を表現であるのは 「同様である。またまで、「の機能をなる」となっ 場合の他 に関係を表現を表現である。 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となる。 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現を表現である。」となっ 「同様を表現である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。」となっ 「の様である。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「の様でなる。 「のをなる。 「のをなる。 「のをなる。	即の主任を見ることでは、1985年の場合を対し、近年 との様と、(日本 1992) 2021年初 「中原省を開発し 2021年初 「中原省を開発」 2021年 (日本 1992) 2021年 (日本	伊斯泰市広報課(? 伊斯泰市古北坡衛建 伊斯泰市古北坡衛建 伊斯泰市古北坡衛建 伊斯泰市古北坡衛建 大選一郎 小河南西
122 124 124 124 122 123	根写真料 実物展点 模写真料 健型開発 様写真料 表写真料 ファイル ファイル	製菓 (原子10分) 60年 人の株式が成みらの間、(の人力)・むりまませて、の 製剤と、(本) 製剤、人のはたださんと、(カーサ) 60年 (製剤、人のはたださんと、(カーサ) 70年 (本) 70年 (大学 (カーサ) 70年 (本) 70年 (大学 (「中国会社会工程を基本である。」の特別を通信的ない。これ (本名) (日本)、日本 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日	伊斯県市の監理(? 伊斯県市の北地南部 伊斯県市川田田 伊斯県市の北地南部 伊斯県市の北地南部 伊斯県市の北地南部 大浦一郎 小田県市の北地南部 小田県市の北地南部 大浦一郎
122 (在写真科 実物展示 在写真科 の登録を 在写真科 で写真科 ファイル ファイル 公意展示	製菓 (原子10分) の様 人の株式が成る人の問題 (日本力)・切りまませて の 製剤 人の株式がある人(日本日) の表現 製剤 人の株式がある人(日本日) の表現 の本地の場合人(現代の人) の本型 (日本日) 人名 (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日) (日本日)	即の主任を見ることでは、1985年の場合を対し、近年 との様と、(日本 1992) 2021年初 「中原省を開発し 2021年初 「中原省を開発」 2021年 (日本 1992) 2021年 (日本	伊斯県市の監理(? 伊斯県市の北地南部 伊斯県市川田田 伊斯県市の北地南部 伊斯県市の北地南部 伊斯県市の北地南部 大浦一郎 小田県市の北地南部 小田県市の北地南部 大浦一郎
122 (123 (123 (123 (123 (123 (123 (123 (根写真料 実物展点 模写真料 健型開発 様写真料 表写真料 ファイル ファイル	製造 (原生物の子) の様 小部本が成本の問題 (日式力・助・主要でで 中 製造上 49 製造上 49 製造上 49 製造上 49 製造上 49 製造 (自転送を入上 (中生り) の間 中の配金 (展記) の目標 一の配金 (展記 を力のの記憶 (基本の)	「中国の企業を担任しており、「日本の主要を担任している。 (日本の主、(日本) 「日本の事業」 2023年初7 「中国は日本で 年末19年8年の大学会 日本の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「中国の主要を表現会 2023年初7 「日本の主要を表現会 2023年初7 「日本の主要を表現会」 (日本の主要を表現会 2023年初7 「日本の主要を表現会」 (日本の主要を表現会 2023年初7 「日本の主要を表現会」 (日本の主要を表現会) (日本の主要を表現を表現会) (日本の主要を表現を表現会) (日本の主要を表現を表現会) (日本の主要を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	伊斯県市の監理(? 伊斯県市の北地南部 伊斯県市川田田 伊斯県市の北地南部 伊斯県市の北地南部 伊斯県市の北地南部 大浦一郎 小田県市の北地南部 小田県市の北地南部 大浦一郎
122 (1 124 (1 124 (1 122 (1 132 (1 132 (1	在写真科 実物展示 在写真科 の登録を 在写真科 で写真科 ファイル ファイル 公意展示	製造 (原子的の子) の例 ARRADATA AORBI (日本力)・切りまませて の 物理と / 40 製剤 / 100以前を10 日間 製剤 / 100以前を10 日間 製剤 / 100以前を10 日間 を対象が、100以前を10 日間 を対象が、100以前に対象が、100以前のが、100以前に対象が、100以前	「中国会社の主張をはなっています。」の中で主義を目的でした。 (日本年)、日本日 「中国会社」 1233年以下 「中国会社開発する 1233年以下 「中国会社開発する」 1233年以下 「中国会社開発する」 1233年(日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	伊斯希尔亚斯提(? 伊斯德市马克拉斯提 伊斯德市马克拉斯提 伊斯德市马克斯斯提 伊斯德市马克斯斯提 伊斯德市马克斯斯 克斯一斯 中斯德语 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德
622 624 624 711 712	東写真科 東写真科 東写真科 東写真科 東写真科 カティル ファイル ジ車展示	製造 (原生物の子) の様 小部本が成本の問題 (日式力・助・主要でで 中 製造上 49 製造上 49 製造上 49 製造上 49 製造上 49 製造 (自転送を入上 (中生り) の間 中の配金 (展記) の目標 一の配金 (展記 を力のの記憶 (基本の)	所名は日本日本の本の大田の一部の本の本の本の大田の本の大田の本の大田の本の大田の本の大田の本の大田の本の大田	伊斯希尔亚斯提(? 伊斯德市马克拉斯提 伊斯德市马克拉斯提 伊斯德市马克斯斯提 伊斯德市马克斯斯提 伊斯德市马克斯斯 克斯一斯 中斯德语 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德語 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德 中斯德
821 822	様写真料 実物展点 様写真料 様写真料 様写真料 表写真料 ファイム 公書展点	製菓 (原子知の子) の例 / ARRADATA AOREM (日本力)・切り主要すて、伊 製剤 / ARRADATA AOREM (日本力) の面 物剤 / ARRADATA AOREM (日本力) の面 (日本力) / AOREM (日本力) の面 (日本力) / AOREM (日本力) /	前の主任を対しては、10年で対し、 2021年初7 ・ 中海は開発で 地名1 「中海は開発で 地名1 「中海は開発で 地名1 「中海は利用 2021年初7 ・ 中海は利用をで 地名1 「中海は10円 2021年初7 ・ 田海は利用をで 出版 (トセはり)、2025年8月1日 2023年初7 ・ 田海は利用をで 北部・ 日本のは10円 に関係をご覧をやりを記述する解析を示す。「不知するだこ を対しました。 「田海は日本のは10円 を対しました。 「田海は日本のは10円 でも、2021年のよう。 「田海は日本のは10円 「田海は日本のは10円 「田海は日本のは10円 「田海は日本のは10円 「田海は10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円 「田海は10円」(10円) 「田海は10円」 「田海は10円) 「田海は10円」 「田海は10円」 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田海は10円) 「田本10円) 「	学院市の広報課(7) 学院市の大阪会議 学院市の大阪会議 学院市の大阪会議 学院市の大阪会議 学院市の大阪会議 大阪会議 ・大阪会 ・大 ・大 ・大 ・大 ・大 ・大 ・大 ・大 ・大 ・大
821 822	様写真料 実物展点 様写真料 様写真料 様写真料 表写真料 ファイム 公書展点	製造 (原子的の子) の例 ARRADATA AORBI (日本力)・切りまませて の 物理と / 40 製剤 / 100以前を10 日間 製剤 / 100以前を10 日間 製剤 / 100以前を10 日間 を対象が、100以前を10 日間 を対象が、100以前に対象が、100以前のが、100以前に対象が、100以前	「日本会会の関係を対しています。」 1985年 200年 200年 200年 200年 200年 200年 200年 20	伊斯希尔亚斯菲 (?) 伊斯德市古其協議 伊斯德市古其於地區 伊斯德市古其於地區 伊斯德市古其始地區 伊斯德市古其始地區 伊斯德市古其始地區 大湖一部 小河義信
622 (624 (624 (711 (722 (732 (621 (621 (様写真料 東写真料 種写真料 様写資料 カファイル ファイル の意展が 様写真料 様写真料 ので真料 様写真料 様写真料	製造 (原子知の子) の例 「用子知の子」 の例 「加工」 から 製造 (から) を持ちらい。 「加工」 から	「中国の企業を対しませんであり、「中国の企業を持ち、「中国を登り なる」、「他等・「中国の企業を なる」、「他等・「中国の企業を なる」、「中国の企業を なる」、「中国の企業を ののである。「「中国の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業、「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業を ののである。」、「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」 「日本の企業」 「日本の企	少税をおよれ課 (7) 少税をおよれ課 (7) 少別をおおりました。 少別をおおりました。 少別をおおりました。 グラック・ラストのは 人成一郎 小別者は ・別者は ・別者は ・別者は
621 624 624 624 624 624 624 622	様写真料 東市県の 東下資料 連貫製制 様写資料 表写資料 表写資料 後写資料 後写資料 後写資料 後写資料 後写資料 を変換料 を変換料	製造 (原子社の子) の何 (AREASTA AORBS 104.251-05-18年で 7 明末 人の出土が与えるの間 104.251-05-18年で 7 明末 人の出土が今く 10年で) の間 (中央の主義を人の出土が今日の一日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	「日本会会の主義」、1985年2月1日 1日 1	中央の下広報課(7) 中央の下広報課(7) 中央の下広報課(7) 中央の下広報課(7) 中央の下広報報(7) 中央の下伝統(7) 中央の下統(7) 中央の下統(7) 中
621 622 624	様写真料 東写真料 種写真料 様写資料 カファイル ファイル の意展が 様写真料 様写真料 ので真料 様写真料 様写真料	製造 (原子知の子) の例 「用子知の子」 の例 「加工」 から 製造 (から) を持ちらい。 「加工」 から	「中国の企業を対しませんであり、「中国の企業を持ち、「中国を登り なる」、「他等・「中国の企業を なる」、「他等・「中国の企業を なる」、「中国の企業を なる」、「中国の企業を ののである。「「中国の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業」、「日本の企業を ののである。」、「日本の企業、「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業を ののである。」、「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」、「日本の企業」、「日本の企業、 「日本の企業」 「日本の企業」 「日本の企	ウルカモ出席 (7) ウルカモと出席 (7) ウルカモと記録 ウカルモンには ウカルモンには ウカルモンには ウルカモとには の メルー の ・ が現在 ・ の が現在 ・ の が現在 ・ の が現在 ・ の が の が の が の が の が の が の が の が の が の

【付録3】2022年展示(左)、2023年展示(右)のキャプションプレート



No.123 [公文書] 昭和二十年・空襲被害 状況報告

各地方検事正ヨリ司法大臣宛ノモノ(国立公文書館デジタルアーカイブ) ※QRコードから国立公文書館サイトに飛びます。

No.311

平塚空襲の投弾範囲地図

米軍の参照用リトモザイクに記された半 数必中界=半径1.2km 特別展図録『平塚 空襲 その時、それまで、それから』(平 塚市博物館、2021)より

- ■2022 年展示では、 後でメタデータを システム入力する ことを考え、時間・ 空間データを<> で括った。
- ■2023 年展示の QR コード活用とクリ エイティブコモン ズ表示の例。

【付録4】戦争関連資料情報の連携のためのデータフォーマット作成について(Ver. 1.1)

(第7回デジタルアーカイブ学会研究大会・チュートリアルで配布)

戦争間連資料情報の連携のための ータフォーマット作成について (Ver.1.1)

1. 戦争間適資料とは何か

1-1 報令間減資料の定義と顧問 我が国の「戦時資料」を定義する困難さは主に以下の

)。 起終点を明確に置くことの困難さ。 実物等生活資料、私文書、図書類、表象、遺 跡前根を含む対象の幅広さ。

(3) 責料的価値の判断の困難さ。これらは、「あの戦争」の対象化の影響たるべき歴史認識

の社会的合意が成立していないことの原因でありかつ 結果である。資料の分散、小規模の民間の資料能への高 い依存度も関連している。 本プロジェクトの対象範囲を「戦争関連資料」とする

本プロシュテトの対象観形(一個中間選升)とする のは、こうした気化を増化でのことから、利じロア 期間・エリアは設ける。軍事火的には明治部からの資料 の機能は、原準、単規制能力が終めませる。の機能などは現在から もの機能は、原準・現場制能が開発の研究をのる機能など もの機能ないまから、原用策をからボフドが正常を き出来的 コワブとする。またメアドは記録制度(保持 所別、開発を同かその (水質性の)に対象(保持 ・対策を)と呼ばるといる。大学の大学ので、対策を ・対策を)といるである。大学の大学の ・対策を)といるである。 ・対策を)といるである。 ・対策を)といるである。 ・対策を)といるである。 ・対策を)といるである。 ・対策を)といるである。 ・対策を)といるである。 ・対策を) ・対策を)

このともに毎にコア期間・エリアを定めることは、間 ○のように似にフが期間・エリアを定めることが、同 総称ではおれ、ある他の歴史記録を記録が自己もようは 別となることは否めない、しかしそれは「あの戦争」に 対する検討すべき一つの質問な対策を置ったであり、 これをで重なるうり概念を提示できができなからなかった な場の違いに対して、比較がニュートラルを認序を提示 することにつかがあると思われる。それは「能力戦体制」 という認識カテゴリーである。

1-2 収集と保全管理、活用状況の実施

1-2 収集と依全管理、出用状況を実施 上され、戦争関連費を後、強関 従来、戦争関連責料を扱う公的に設置された無関は排 物館(集前艦・郷土実料館をむ)、(調館に公文書と分れ、 なっなを無料する法に定って起き。役会管理、次則がな されている。但しその場合多くは戦争関連資料の扱いを 目的としておらず、規定の基準を用いて他の様々な資料 と同等に扱われる。その結果、戦争を主題とした調査に

際して、資料に行き当たらないケースもある。 戦争自体および戦争関連主題を扱う資料館・展示館は、 反問あるいは公的であっても(自衛弾駐屯地資料館のよ うに)地域やその機関の性格に準じた運営がなされてい

るところが多い。様々な先行調査によれば、その多くが 現機的に零組であり、また資金も乏しく、体制的にも(学 芸員がいない、収蔵品の保全に適した物理的環境がない

等) 整備されているとはいえないところが少なくない こうした状況は一個一夕に改善できるものではない こうした状況は一例一夕に改善できるものではない。 従って本プロジュクトは、まずはその改善の方向性の検 討に費するための、情報具有と知的資源の流通基盤の整 縮に照率し、その試行の一つとしての位置づけな目指す。

1-2-2 収集の機械性と受動性 「戦争問題費料」に限かす多くの資料には、モノが「資料化」するという説明がある。最初から公文書として作成されたもの。あるいは公共空間に置かれた遺物を除けばその期間の多くは、「活動物の所有(私有)から解かれる行為によって関かれる。

6行為によって関係れる。 中の場所は大きかて、①を鑑・調査、②幸物・行ち込み、②報道・現材、②その他に分類できるが、異存取り 扱い・機関、申労機関の場解的とリケース、カより機関・ 様介する。とりは7020円存(後行)のあるまに限り。 多くは一つが何名(仕事事の事等)の形だによる役比 が関係となる。との他、所有を失いたよ機能機勝が 生じ、1-1300「判断の機難さ」の様に突き当たる。

1-3 資料としての特性

1-3.1 一次資料・総関係 売資料のもくが一次所有系の予定に具際関連されているケースが参いこと。 在名食 物・機関の多くにお でいるケースが参いこと。 在名食 物・機関の多くにお に実施の変更をしていないことは、資料を全しおける を展入のメステンセある。 特に代替の前かない大発育科 (展別の必要的は大きが関連であるが、デジタル保存 に関かっ発酵は大きが関連であるが、デジタル保存 に関い、の実施をは、サジタルデータの保存の関連に残る)。 一次資料のうち、作る天空の心臓疾の小薬剤と調 とした有機割やの外でには、上記物環境のからなが、 原型を伸伸・液とない臓器をもかる影響がかる 原型を伸伸・液とない臓器をしたしたの影響がか

とした有職兼材の径会には、上記物理環境のみならず、 管理や補助・便元などの知識をもった人材の配置が欠か せない、しかしその多くが公的機関に集中しておりま た大中の公的機関においても収置スペースの問題は大 さな課題であると同時に、他の資料に比して「報料関連 資料」の持ち込みが公開しているアンバランスな現状が ある。情報片有は現象の課題である。

1-3-2 メリ管報との組付け 一次所有者の死亡によって新在化した資料の多くが メリを情報を失った状態で持ち込まれるのも大きな問題 である。特に実物等生活資料の場合、その「戦時資料」 としての意味が明文化されていない場合、「記憶」から 「記録」への価値転換は困難である。調査の必要性から

一旦保留した場合も、モノが収載スペースを圧迫するという影響が二次的に生ずる。

フか音が一久的やエテマ。 こうした問題を回避する意味でも、類似何の検索・参 こうした問題を何配する意味でも、類似例の物水・参 即間を合物問題を出版を改領を保たす、この報告 保全の機定期位の判断のみならず、欠割情報の補額、資 料間の関係性を可視化させるリンクの生成の鍵を再結 的に割うメタ析物の発しを使す、ボブロジェクトの基本 的なデータ構造は、この概点かり策定される。

前項とは裏去の関係にあるが、取扱い機関側の積極的 調査が行われた場合、あるいは持ち込みが行われる際に その機関の積極的選択が行われた際 (所属部隊を引き継

その側の機能が開発が行かれた前 (外属原理や付き無 (の高原発用能とされいて開発である) 総列性料の値 値がその2版(コンチラスト) に成く引きつけるれ、解釈 可能でしまりまかきにな。 中に裏が正列される番目は、コーナーの名称が設定さ 前のエピケンスと「のの機工がに関係とれる。一次 資料として加難に、あるいは対策の送酬をおしましてい です。係る金属でかられて収率、単立もも出来、相反 の関係性が可能なる制御・状況に置かれるケースも少な くない。本プロジェクトでは、その壁を取り払う意味で、 こうした文献要素にはニュートラルに扱いうる位置づけ

1-3-4 副合性と空白 機争の定態には地域性がある。それは「能力機体例」を 円生金生の機能の時代(毎年総別、単価協設)と、空襲 などの被害。それに関係する従来が生活により構成され、 各々の膨胀が成まれる。従って当然、無妨される原料は 地域によって後年のも、ペメによっては道轄や空白が 生じる。それらも実は重要な特殊である。

資料を取り扱う機関を越えた情報のネットワークは 解析を収扱う網別を終えた解心ホットツーウは、 全場電行に解除を促し、2種を使か正確していた機 かを認志する。その一個に「砂碗料の」等である。(認起、 を基本として他能される「自意販売」と異なり、アンボフ ラーな砂板は風光が多っ間倒れを動きにな用し、解釈 の形気性を吸っなアクラトフォームとなる。 本で「砂碗料の「サイクリルに」、外側側別あいけ鎖 人所有者からの別人、選び、あかけ近かでの選手で成 別館が行われる値である。5 ちには、屋中目中 エトー・電影が吹えれることがかい(保証と分析を発 ままな日接待なくれるのい場合である。(2000年)

羅する目録がつくられない場合でも、一部の資料に限定 されるがデータ化のチャンスとなる)。

1-4 N北田利性

地域に関じた記憶を、歴史的解釈に編みなお す際に必 図などとともに用いられるのが外部機関収載資料の推?

図などともに用いられるのが外が機関収載資料の復写である。 である。 借入のハードルの高い海外の機関からのものや、実物の 物理存在よりる金融内が明めれるかったが表すおよびメデ マア専門は、推りが明めれるウィスが一般的である に実施して、大会が明めまれるウィスが一般的である。 に 取得額の公文書は終現時の廃棄処分によって失われた ものが少なくなく、また写真・映像ついては高い記録意識 を行していたアメリカなどの戦勝同公文書館に多くの機

前項の目録や団縁同様、さらには書籍や研究論文などの 印鍵・出版物もメタ資料性を存する広義のN次資料と見荷

戦争関連資料のデータ構造 2-1 Linked (Open) Data との機和性 「戦争関連資料」に関する情報共有と知 基盤の整備は、Linked (Open) Data の考え方に単拠した。仮想的なデジタルアーカイブの構想と親和性が高い。 WWW と田来の図書館情報学的知見との交点にある Linked (Open) Data のデータ寺間は、影響的に構造化 されたスタティックなフォーマットを函提しない (この ことは文脈の前類化を退ける)。またその物性にもその輸 ことは文献の前報を返消する)。またその時性にもその場合 等 (単一性)。たんだされたか、全での情報を「主語」「「注画」「日 的語」クラクタ基基年限とし、空間全体をそれたの連結 体(日的語」と呼ばれた。 力リントでは、日本のでは、

2回に置かれる、すなわち与えられたモノを「戦 この空間に置かれる。フロカッチのカルベーマニャー 中間連載料 こに電船づけっちゃつか青田は、ノード に分割され、URI (Uniform Resource Identifier) として 記述される。その情報なみノードを結ぶアータの状態 (Syntax) パターンによって定義が指言され、CR

「戦争関連資料」の RDF リングには、①国語性を表す もの (そのモノをめぐる当事者/関与者の存在を明らか にする)、②同一性を表すもの (実世界における役置を指 し示す)、②語彙を表すもの (説明要素として難く) の3 タイプがある。この形式に全ての情報を収めることによって、そこから検索結果データが抽出される。 不明な場合は記載されない(=RDFリンクが生成され ないだけで、欠損値として扱われることはない)

2-2 基末構造 (1) RDF リンクの3タイプ停助

2-2-1 関係性 サンタ (relationship link)
2-2-1-1 名称 (Name) について
2-2-1-1-1 固有名 (proper name)
「戦争関連責料」の RDF サンクにおいては、関係性 リンクを構成するノードは名称 (Name) に限定される。 すなわちここでは、主体となる名前をもった存在が、客 すなわりことでは、上外となる名前をもった存在への何 体 (目的対象とされる)となる名前をもった存在への何 らかの使役関係が記述される。固有名は人名のみならず、 組織名、題名、慣例的呼称などが該当する。

2-2-1-1-2 普通名 (common name) 香通名には 2-2-1-1-2-1 「モノとしての名称」、2-2-1-1-2-2 「文書の一般分類」名称、2-2-1-1-2-3 「記録媒体名

2-2-1-2 目録・受入元・帰属情報につ

2-2-1-2 日緑・受人広・帰属情報について 個々の資料については、全て何らかの日緑・リスト・ 一覧表に端する(逆に言えば、日緑・リスト・一覧表 の一行にあたるものが資料の単位となる)。したがって全 ての名称が、日緑・リスト・一覧表の名称にリンクされ

交書の場合は薄細情報、モノ・文書ともに複写・受人・ 寄託その他の上位資料群 (コレクションなど) が存在し ている場合は、その名称が記載される。

2-2-2-1 時間前報 「戦争間速食料」の RDF リンクにおいては、同一性 リンクを機成するノードは関係性リンクを機成する名称 (Name) 相互の使収関係を同定する時空間(リテフル) 情報と、一次資料の現存在(一収載)に扱づける(ID)

シンシン 空間前報 空間情報は、都道府県/市町村 (行政区、政令区合) / で記述される。地域の機関においては敢えて記載されて いない場合もある。市町村以下の町字情報は説明情報に

機関ごとに与えられた、資料の所在を指し示す (同定 する) ユニークな ID ナンバー、シリアルナンバーが記

2-2-3 a需要リンク (vocabulary link) 2-2-3-1 意味計情報 (Semantic groups) (戦争問題被料」の RDF リンクにおいては、語彙リ ンクを構成するノードは関係性リンクを構成する名称 (Name) が、その機関において置かれている文脈を表す (階層に置き換えるならば見かけ上) 上位の意味群情等

情報に重要表えるかは近かけり上位の原電前機 (情報に重要表えるかは近かけり上位の原電前機 がそれが、関切関連機能としているのでは、 の関連を対象があったとされる下分の原理 (Descriptors キャブケッツの)上限だされる。 の電影解性に対象があった一を得を発生れる。 の電影解性に対象があったの解析を必要される。 の電影相性によった一を解析を引 またる場合は、その概則性心があった。 またる。また第二十一のタイトの状態が必要がある。 またる。また第二十一つタイトの状態が必要がある。 またる。また第二十一つタイトの状態が必要がある。 説明情報に記載される。

2-2-3-2 説明情報 (Description) 上記項目 (2-2-1 関係性タック以降・前項まで) に記 載された情報以外で、日線・タスト・一覧表、図線、展 示品キャブションに明示された情報は、全てこの項目に 記載される (例: 日録等では主に備考額に記入される)。 または目録等に明示されてはいないが、一次資料その ものから読み取れる、または台帳等の関連資料に記載された追記情報もここに記載される。

2-3 基本構造(2)記憶対象(出来事)と記録対象(作

成行為): 当事者と寄与者 2-2-21 時間結構、2-2-2 空間結構、2-2-3-2 説明結 報から引き出されるリンクの目的語には、可能な記憶対 象(出来事)の一般的名称が記載される(「人市被響」「無 集 信集等)の一般的名称が記載される (人品市場) [編 ・ 一相「運動開撃」「無信後」等。これらの名称は2-2-3-1 直集情情報。2-2-2 辺時開催のも使用側度の高い・ のが始結され、2-4-3 辺情が終に活加が正認をされる)。 さらにここを上落にして、2-2-1-11 国信名がその出来事 の「事業者」としてリンクされる。 また同様に 2-2-2 に関助情報の目的話に記録対象(作

また月様に 2-2-2 時間時後の日後前に設建業 (作 成行為) の2-2-11-2番後のもり。2-2-11-2-3 返課機 体名称が耐づけされる。またさらにこれらに特定の行為、 運動、流行、サブカテゴリーが認められる場合、2-4-6 記 練対象 (特定表象符) が認由 (日本の2) [小型映画] [日本ニュース|等) まれる。さらにこを主語にして、 2-2-1-11 照有名がその記録の[寄り着]としてリンクさ れる。

2-4 基本構造(3) ブリコード

名称と名称が繋がる2-2-1 国銘性リンクの場合で日 語が2-2-1-1-1 国有名の場合かつ人名または団体名の 合、目的語の主語に対する行為がブリコード化されア クに記述される(別級)。

2-2-1-1-1 固有名が題名、2-2-1-1-2 普通名がモノの名

でなっして日本日本の報告、であっして表面をおせての名 終である場合、キャフェックカルカティフィスを完す物 性情報が練別・コード化され続づけられる。 コードの第一部階とは四部第二次支責ご規模度費料、 (実物費料、30-14本及物質料、60-40他(原内)、70屋 外展示モニュメントとする(明報)。

日録が作成される機会をコード化し記述する。A イベ ント (短期展示、その他公開、上映、ワークショップ等) /B 常設展示/C 収蔵 (施設収蔵、個人所有) /D ドキュメンテーション (リスト化/流文・書籍等) /E ほか

2-4-5 記憶対象 (出来事) 2-4-6 記録対象 (特定表象群)

これらは2-2-3-1 意味辞情報、2-2-3-2 説明情報から抽出される。初期情報としては、いくつかの協力機関の情報をもとに設定作業を行う。

 データ標準化のための作業手順
 3-1 既存機関極限ごとのレギュレーションの考慮 戦争保護資料を扱う機関・施設の分類を行うには以下 三つの輪を考慮する必要がある。①公的機関か/私設あるいは他の目的の機関の付属か、②戦争関連責料に特化 した機関・施設か、①規模・運営体制(等用収載・常設 展示設備の有無、学芸賞などの人員確保・賃金)、終に① の公共機関には既に述べたように同書館、評物館、文書 館各々のレギュレーションがあり、それ音体に関与する

ューム、管理状況、説明情報の充実度から考えると公的 機関の企画・常設展示と戦争関連費料に特化した記問・ 私設施設の展示权方をカバーできるよう事例を収集し、 最大公約数的な予順を想定し作業計画を立てる必要が

3-2 想定される作業手順 3-2-1 展示情報・新規日録作成時のデータ作成 全面展示にあわせてデータを作成する場合、また常設 展示の人内替え等、任意のデータ報告オミングにあわ せて作成する場合、基本的に入力すべき情報が一律に用 **直された状況となる。デジタルアーカイブ化された展示** の場合も同様。

3-2-2 既存日録、台帳など一部研報からの転送 シンス 成代日曜、日曜など一部情報からの年記: 既に存在する日韓から作成する場合は、日緑に記載さ れた情報からまず入力し、日緑にない情報(画像も含む) は追加、上書きする。コレクション、受人合紙など収蔵 日緑の一部を構成する情報からデータ化を進める場合 GFHE.

3-223 不販用状況かつの予測 資料が未整理状態で保管されている場合、あるいは原 所存者からの引き取り時などとおいては、画像データの 登録を起点に、その時点で判明している情報をその場で 入力し、事後に関連情報を確定する。

留意点 (略) 4-1 データの揺れ 4-2 ファクトチェック 4-3 プライバシーと公益性

註

- 1 伊勢原市の平和事業は1985 (昭和60) 年に議決された「健康・文化都市宣言」と、1993 (平成5) 年に議決された「伊勢原市平和都市宣言」を契機に、様々な啓発、教育普及事業を展開しているもの。水島研究室は、2014 年度より主に平和史料収集・公開事業を中心に協働を始め、現在ほぼ全事業に何らかの関与をしている。
 - https://www.city.isehara.kanagawa.jp/docs/2021122700041/
- 2 「質問が通じない」「答えが理解できない」聞き手と語り手双方が戸惑う状況に積極的に注目した結果、①「これまで他人に話したことがなかった」ことがらが口をついて出る。②語り手自らが戦前・戦中に自明としてきたことを意識化し、メタレベルの語りを行う。③語り手世代に共有された「規範」への従順さ、「規範」が崩れた時の「思考停止」の実態が現れる——など、証言者の無意識に食い込むことができた(拙著「70年の視差ー伊勢原市・戦争体験者インタビューとワークショップー」『東海大学紀要文学部第107輯』2017)
- 3 デジタルアーカイブ学会 SIG「戦争関連資料に関する研究会」のページは、残念ながら 2021 年 4 月末を持って更新が止まっている。https://digitalarchivejapan.org/bukai/sig/warmaterials/ その後、第7回大会(2022 年 11 月 25 日)のチュートリアルで、その後の研究のとりまとめを「戦争関連資料情報の連携のためのデータフォーマットについて ver1.1」として発表した(本稿末に【付録】として掲載)。
- 4 コロナ禍以前の「ヒロシマの旅」経験者に筆者はインタビュー等を行っている(『戦争をいかに 語り継ぐか』p.228・234 参照)。この中の一名(「O 君」)はその後東海大学に入学し、2023 年の 展示資料作成に協力してくれた。
- 5 筆者は、2022 年 6 月 18 日岡山空襲展示室にて講演を行い、論考を図録に掲載している(「空襲経験を継承する取り組みの節目を迎えて〜『戦争の意味論』を共有するための手がかり〜」『第 45 回岡山戦災の記録と写真展(図録)』2022、岡山市)。
- 6 このデジタルアーカイブのシステム設計は、デジタルアーカイブ学会「戦争関連資料に関する研究会」の成果として開発した、展示や図録などとアーカイブをつなぐ方法論に基づくものである。現在、戦争関連資料だけでなく、草の根の地域アーカイブや資料館の一次資料のデジタル化にどのように活用できるかを検討している。(椋本輔、上松大輝「戦争関連資料をつなぐメタデータ共有システムの構想」(水島久光責任編集『LRG』第36号「特集:戦争の記憶と記録」(アカデミック・リソース・ガイド(株)、2021))参照)
- 7 ここでアーカイブ概念に関する重要な示唆をミシェル・フーコーが与えてくれていることを思い 出したい(『知の考古学』『言葉と物』など)。

文中・脚注記載以外の参考文献

藤井忠俊『在郷軍人会――良兵良民から赤紙・玉砕へ』岩波書店、2009

------『国防婦人会---日の丸とカッポウ着』岩波新書、1985

田中利幸『空の戦争史』講談社現代新書、2008

平塚市博物館『平塚空襲、その時、、それまで、それから』2021(図録)

ほか